

한국사진문화연구소 자료집 vol.7

전조선사진연맹 《조선사진전람회》 관련
『경성일보』 자료집 원문

한국사진문화연구소 자료집 vol.7
전조선사진연맹 《조선사진전람회》 관련
『경성일보』 자료집 원문

한국사진문화연구소

Korea Institute of Photography and Culture

주 소 서울시 송파구 방이동 45 한미타워 19층

전 화 02-410-9123

팩 스 02-418-1316

웹사이트 www.photomuseum.or.kr

이메일 research@photomuseum.or.kr

목차

5	1934 년
21	1935 년
27	1936 년
37	1937 년
47	1938 년
58	1939 년
67	1940 년
81	1941 년
90	1942 년
94	1943 년

일러두기

1. 한자는 기사 원문대로, 정자(正字)로 표기하였다.
2. 가나(假名) 표기법, 반복 부호(踊り字) 등은 기사 원문에 따르는 것을 원칙으로 하되, 일부 예외를 인정하였다. 원문의 세로쓰기에서 가로쓰기로 옮기면서 다른 글자와 혼동의 우려가 있는 반복 부호(く 등)의 경우에는 해당하는 글자로 변경해 넣어주었다.
3. 한자 독음(振り假名)은 표기를 생략했다.
4. 문장 부호, 방점 도형 등은 기사 원문대로 표기하였다. 또한 행이나 문단 바뀔 등도 가급적 기사 원문에 따랐다.
5. 기사 원문 중에 명백히 오기(誤記)로 보이는 표현이 있는 경우, 원문에서는 이를 그대로 옮긴 뒤 대괄호 안에 ‘원문 그대로’라는 의미의 ‘ママ’ 표기를 하고 올바른 표기를 병기하였다.
예) トミリング(x)→トミリング[ママ、トリミングカ](o)
※ ‘트리밍(trimming)’을 ‘트미링’으로 오기
6. 판독이 불가능한 문자는 ■로 표시했다.

1934年

1934年 8月 7日 석간 3면

全朝鮮寫眞聯盟

茲に強固なる結成!!

有力なる各團體を網羅

各地に於る寫眞團體の參加を求む

寫眞研究團體の統制聯盟體は、わが國各地に結成され素晴らしい動きを見せてゐるが、今回わが朝鮮においても最初の寫眞團體の聯盟—全朝鮮寫眞聯盟が結成された、本社はかねてから寫眞熱の熾んな朝鮮にその聯合團體のないのを遺憾とし、その結成仲介の勞をとるべく準備をしてゐたが、やうやく案がまとまったので、去る六月二十四日午後六時から京城南大門通り千代田グリルに本社側から時實社長、高田編輯局長、河野寫眞部長、絹田事業部主事出席、在京城各團體代表者二十數氏を招き聯盟規約を中心に協議、規約を決定、こゝに全朝鮮寫眞聯盟結成の基礎を作った、この聯盟は朝鮮に於ける寫眞に關係ある團體をもって組織されるもので、事業として寫眞に關する研究、調査、撮影、展覽、加盟團相互の交換展、講演、見學、視察、作品の奨勵紹介、出版などを行ひ、輝く寫眞朝鮮をめざし強力な權威團體として活動するわけである、同聯盟では京城はもちろん全朝鮮各地からの大學參加を希望してゐる

全朝鮮寫眞聯盟規約

第一條 本聯盟を全朝鮮寫眞聯盟と稱し斯道の向上發展と相互の和親を計る爲朝鮮に於ける

寫眞に關係ある團體を以て組織す

第二條 聯盟事務所を京城日報社内に置く

第三條 本聯盟に左の役員を置き聯盟に關する一切の事務を處理す

理事長一名、理事四名、委員若干名

理事長は京城日報社長就任す

理事は京城日報社員中より二名會員中より二名理事長の指名により就任す

委員は京城日報社員及加盟團體員中より理事長の指名により就任す

役員は總て無報酬とし、任期は二ヶ年とす但し再任することを得任期の途中缺員の
場合は補缺せざることあるべし

第四條 役員會は理事長之を招集し理事二名以上委員八名以上の出席を以て成立し出席者の
過半數を以て決定す

役員會は聯盟の重要事項に就き審議す

第五條 本聯盟は左の事業を行ふ

寫眞に關する研究調査、撮影、展覽、加盟團體相互の交換展、講演、見學、視察、
作品の獎勵紹介、出版、其の他有力なる寫眞團體と連絡し、研究の發表、作品交
換、通信紹介等をなす

第六條 本聯盟は毎年一回以上加盟團體の代表者會、大會及懇親會を開く但し之を省略又は
臨時に開會することを得

第七條 本聯盟に加盟せんとする團體會員五名以上を有する團體に限り、其の名稱、同事務
所の所在及責任者二名と會員全部の住所氏名を記載し聯盟事務所へ申込むべし

第八條 本聯盟に加盟したる團體は之を聯盟簿に登録し會員に聯盟會員章を交付す

第九條 加盟團體の責任者は左の事務をとるものとす

一、事務所、責任者、會員の異動報告其他聯盟との連絡

一、聯盟主催の代表者會、大會又は懇親會に出席者幹旋、聯盟會費の取扱

第十條 聯盟加入の團體は聯盟の開催する競技會其の他に參加する資格を有す

第十一條 本聯盟は斯道の功勞者學者、技術家等を役員會の決議により客員として推舉する
ことを得

第十二條 加盟團體は左の會費を負擔し年度の初月に聯盟事務所に納むるものとす

一、京城に於ける團體 年額三圓

一、地方に於ける團體 年額一圓五十錢

年度は毎年四月より起算し翌年三月を以て終る

年度の途中に加盟せんとする團體は申込と同時に會費を納入すべし途中の脱退に
は會費を返却せず

第十三條 第五條の事業遂行上特別の費用を要するとき其の釀出方法は役員會に於て決定す

第十四條 會費の納入が一ヶ月以上遅延したるときは聯盟より脱退せるものと看做す

第十五條 本聯盟の收支は理事中の一名之を司り役員會の承認を経て翌年度の最初に之を加
盟團體に報告す

役員

なほ役員は左の如く決定した

理事 山澤三造
山根好太郎
河野佐市
絹田節一
委員 坪川英土 [ママ、英土カ]
長濱能得
田中郷甫
秋葉秀彌
中尾勇夫
若林嘉茂
清原辰男
大沼幸壽
高田知一郎

1934年 10月 5日 석간 3면

聯盟創立記念
全鮮寫眞展印書を募る
十五日締切・廿日から展覧會

この度、全朝鮮寫眞聯盟創立を記念するため、創立記念全朝鮮寫眞展覧會を華々しく舉行することゝなりました、就ては左記規定により會員諸君は奮って應募し、聯盟が行くべき前途に多々ますます光輝あらしめるやう御發奮を祈ります

- 一、課題 隨意
- 一、大きさ カビネ以上（長邊六吋以上）
- 一、参加資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録済の團體員に限る。新に加盟希望の團體は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ申込み下さい
- 一、點數 一人何枚にてもよし制限なし
- 一、印畫締切期日 十月十五日午後六時までに聯盟事務所へ到着を期すること
- 一、印畫提出に関する注意 (A) 作品は今までに『展覧會』若くは公刊物に發表せざるもの (B) 台紙は隨意とす (C) 印畫の裏面には参加章を密着し、本聯盟から交付して

ある各員の會員章の番號を記入し、住所氏名は一切書かぬこと (D) 印畫は一切返戻せず

一、**印畫送り先** 京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所宛

一、**審査發表** 十月十八日

一、**審査員** 印畫受付終了後發表

賞

推薦 (二名) ◇李王職長官賞壹名 ◇學務局長賞壹名 ◇一九三四年聯盟推薦賞壹個宛
◇京城日報社賞壹個宛 ◇賞狀

特選 (五名) ◇一九三四年聯盟特選賞壹個宛 ◇京城日報社賞壹個宛 ◇賞狀

入選 (一〇〇名) 一九三四年聯盟賞壹個宛 ◇賞狀

展覽會 十月二十日より二十四日まで五日間京城三越支店に於て記念展を開催し、終了後は地方に於ても開催の豫定

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1934 年 10 月 6 日 석간 3 면

寫眞聯盟について

讀者の質問に對するお答へ

全朝鮮寫眞聯盟に加入方法及び創立記念展への出品方法承りたし (木浦待望生)

△聯盟に加入される場合は會員五名以上を有する團體に限り、其の團體の名稱、同事務所の所在及び責任者二名と會員全部の住所氏名を記載しにる [ママ、したるカ] 名簿に加盟團體が負擔する會費 (京城に於ける團體は年額三圓、地方に於ける團體は年額一圓五十錢) を添へて京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所に申し込まれたし。また今回印畫募集中の展覽會への出品は本聯盟に加盟してゐる團體に限り參加出来るもので多數の賞品等がある。締切りは來る十五日 (係り)

1934 年 10 月 17 日 석간 2 면

全朝鮮寫眞展
廿日から三越で
審査員顔ぶれ決る

全朝鮮寫眞聯盟の創立を記念するための創立記念全朝鮮寫眞展印畫募集は、その發表の遅かりしにもかゝらず、全鮮各地の加盟團體がそれぞれに力作を出品し、十五日午後六時迄に京城日報社内聯盟事務所へ搬入したものは三百點を超過するの盛況を示して居る、なほ今回の聯盟創立記念全朝鮮寫眞展は十七日及び十八日に亘り審査を終へ入選の發表をなし來る二十日より二十四日まで府内三越京城支店ギャラリーに於て一般に公開展を開催するが其の審査員を十六日時實理事長より左の通り委囑された

創立記念全朝鮮寫眞展審査員

山澤三造氏

山根好太郎氏

河野佐市氏

1934 年 10 月 19 日 석간 2 면

優秀なる寫眞
百七點入選す
廿日から三越で展覽

かねて募集中であった全朝鮮寫眞聯盟の創立記念寫眞展の印畫は十七日山澤、山根、河野三審査員によって嚴選の結果左記の百七點が入選した、特選、推薦の發表は明日の紙上で發表するが、入選寫眞は廿日から三越ギャラリーで展覽會を催す

▲落日（平壤）福島柳也▲ポर्टレート（京城）忽門明二▲河畔にて（同）高久利七郎▲稔る秋（同）金貞來▲靜物（木浦）柿元一▲靜物（羅南）岡田光行▲秋光同同人▲雨後（京城）龜井五郎▲汽船（木浦）柿元一▲構成（京城）矢部與一▲節物（木浦）藤井雅男▲坊と犬（京城）田中郷甫▲秋晴れ（同）羽泉清一郎▲村（鎮南浦）李泰敬▲朝（京城）大橋誠▲線と光（同）山根次述▲小山五千石氏の像（元山）梅田覺治▲秋晴れ（京城）大森勝一▲靜物

(木浦) 藤井雅男▲初秋(京城) 飯尾敬次郎▲静物(同) 大沼幸壽▲港内スケッチ(木浦)
柿元一▲蔭(平壤) 徐淳三▲田舎の風景(京城) 瀧村秀雄▲壺(同) 金用雲▲山のふもと
(同) 島田常雄▲花瓶と果物(同) 小山博之▲子供と線(同) 水川實▲エヤポート(同) 羽
泉清一郎▲町の出来事(同) 土平益▲崑盧峯の雲海(仁川) 河野琴舟▲波紋(平壤) 國弘箕
一郎▲登りつめて 京城 高田知一郎▲山のお寺の鐘が鳴る(同) 若林嘉茂▲山の暁(同) 清
原辰男▲ポートレート(元山) 梅田覺治▲静物(鎮南浦) 李泰敬▲或る日の窯場(羅南) 岡
田光行▲窓際の静物(京城) 清原辰男▲静物(同) 同人▲厄日近き頃(平壤) 久保虹城▲露
營の跡(京城) 宮本松爲▲懷古(同) 山田主夫▲河畔所見(晋州) 永松德輝▲漁場スケッチ
(京城) 原條喜久郎▲船大工(平壤) 原田穫▲夏景色(大邱) 古賀義徳▲朝鮮寺■■の虎
(晋州) 澁江吉三郎▲紅蓮(京城) 小山博之▲波(同) 矢野干城▲波紋(同) 森周吉▲格納
庫(同) 若林嘉茂▲彼氏(同) 大沼幸樹 [ママ、幸壽カ] ▲公園の橋(同) 森田耕作▲スナ
ップ(同) 原立夫▲採氷(同) 高野松治▲廻る廻る(同) 羽泉清一郎▲光(興南) 鈴木傳十
郎▲岩かげ(京城) 山田主夫▲ポートレート(同) 清水孝作▲光る蜘蛛の巣(同) 岩崎龍三
▲樹氷(新義州) 占部清良▲窓に見る驛(大邱) 埋金磨▲或る廣告(同) 同人▲昌慶苑にて
(二) (京城) 水川實▲なぎさ(同) 市島九郎▲昌慶苑にて(同) 水川實▲舟(同) 土平益
▲ポートレート(同) 清水克己▲秋(同) 徐淳三▲綠柳白馬(平壤) 福島柳也▲ポートダビ
ット(羅津) 水野正利▲パンチャン(平壤) 福島柳也▲胡弓(元山) 岸井保▲冬(京城) 清
原辰男▲煉瓦焼(羅津) 西島寅五郎▲干網(京城) 清水孝作▲寂(羅南) 山田肇▲れいし
(京城) 龜井五郎▲秋の雲(同) 若林嘉茂▲静物(同) 大沼幸壽▲舟(同) 土平益▲經學院
(同) 原田幸雄▲郊外風景(大邱) 埋金磨▲生きて居る間(平壤) 玄一英▲朝の風景(京城)
岸如水▲静寂(平壤) 福田進▲小憩(京城) 水川實▲果樹静物(同) 渡邊修▲自動車(同)
田中郷甫▲構圖(大邱) 古賀義徳▲荷役作業(羅津) 伏見信治▲憩ひ(羅津) 小川三郎▲静
物(京城) 田中郷甫▲平和な丘(同) 金貞來▲坊やのテニス(羅津) 月野藤治▲空に生るも
の(京城) 原條喜久郎▲湖邊早春(同) 宮本松爲▲K君の像(鎮南浦) 李泰敬▲收穫(興南)
吉水前▲夏姿(平壤) 高野松治▲港の朝(京城) 中尾勇夫▲初夏(江景) 藤田悦三▲平和の
里同人▲貯蔵塔(京城) 佐藤新吉▲朝(同) 中尾勇夫▲卵(羅南) 良木■■雄

1934년 10월 19일 조간 7면 기사

推薦特選寫眞
嚴選の上發表さる!
廿日から三越ギャラリーに
聯盟寫眞展開かる

全朝鮮寫眞聯盟創立記念の大寫眞展覽會は愈々二十日より二十四日迄京城三越ギャラリーに開催されることになり入選者は夕刊發表の如くであるが、さらにその優秀作品中より推薦二點及び特選五點を審査員に於て嚴選に嚴選を重ねた結果左の如く決定發表された

推薦 綠柳白馬 平壤大和町一一 福島柳也

推薦 ポート・ダビット 咸北羅津 滿鐵建設事務所 水野正利

特選 バンチャン 平壤大和町一一 福島柳也

同 胡弓 元山府京町 東拓元山支店 岸井保

同 冬 京城本町五ノ四六 清原辰男

同 煉瓦焼 羅津 滿鐵建設事務所 西島寅五郎

同 干網 京城旭町一ノ一〇〇 清水孝作

1934년 10월 20일 조간 7면

聯盟寫眞展の陳列準備
けふ聯盟寫眞展
三越ギャラリーに開かる
全朝鮮寫眞聯盟の創立を記念し
絢爛百七點出陳の盛觀

全朝鮮寫眞聯盟創立記念—第一回寫眞展覽會は二十日から京城三越五階ギャラリーで開かれる、全鮮から應募した約五百點のなかから選ばれた貴重な百七點は、いづれもカメラ藝術の粹を示すものばかり、特に嚴選を経た七點の推薦、特選ものは世に誇るに足る最優秀作品でおそらく一見した人たちは『寫眞朝鮮』のすばらしさに意外の眼を見はることであらう、入場無料、會期は二十四日迄

1934년 10월 21일 석간 2면

聯盟寫眞展開かる

1934년 10월 21일 석간 2면

主催 全朝鮮寫眞聯盟

全鮮寫眞展覽會

20日-24日・5階ギャラリー

三越

京城

1934년 10월 21일 조간 7면

綠柳白馬 李王職長官賞（推薦第一席） 平壤 福島柳也氏作

1934년 10월 21일 조간 7면

觀衆の心を抱きしむ

印畫の魅惑！迫力

廿日から華々しく開催された

第一回全朝鮮寫眞展覽會

☆……聯盟創立第一回全朝鮮寫眞展覽會は廿日から廿四日まで京城三越ギャラリーで開催中であるが第一日の廿日は午前九時から華やかに寫眞展の蓋を開けた

☆……全鮮のカメラマニアから集まった五百餘點の優秀作品中から傑作百七點をピックアップした會場は半島カメラ藝術の最高峰を縮寫してゐる

☆……第七藝術に伶俐な關心を持つ參觀の人々はレンズを通じ來る作品の迫力に鑑賞の■は
燒き付けられてゐる、問題の推薦寫眞『綠柳白馬』と『ボート・ダビット』は人足を止め、
眞摯な批評と鑑賞の的となり文字通り會場の人氣の焦點となつてゐる

☆……ソフト・フォーカスに引きのばし、ハイ・ライトと多角神經にピントを合せセピアや
グリーンを織込んだ出品作品にはいづれも苦心の種板が箆め込まれてあつて、秋酣の京城
に神秘的な高い香りを放つてゐる

1934年 10月 22日 석간 2면

ボートダビット 學務局長賞(推薦第二席) 羅津 水野正利氏作

1934年 10月 23日 석간 3면

推薦作までを語る

第一席 平壤 福島柳也氏談

【平壤電話】全朝鮮寫眞聯盟創立記念寫眞展覽會に於いて推薦第一位並に特選第一位といふ
いづれも全鮮第一位の榮譽を擔った出品者平壤府大和町福島氏宅にこの快報を齎せば、語る

私は寫眞に興味を持って寫し始めてから十二三年になりますが藝術寫眞といふことに
ついては到底吾々の及ぶべき境地ではないと思つて

ただ器用に寫せればいい位に考へて、まあ最近趣味的なものを寫しては同好者に分譲
してゐた處へ昨年御社で夏といふ題で寫眞募集をされたのに一寸興味を以つて出品しま
した處、二等一席に當選したので、こゝに自分でも藝術寫眞作畫の技倆が全然ない譯で
もなさそうだと自惚が出、研究心に拍車をかけられてゐる處へ東拓支店に大藪といふ高
級藝術寫眞ブ롬オイルの大家が來られたので眞先に駈けつけて教を乞いどうやらもの
になりさうになった處へ、今回の

全朝鮮寫眞聯盟創立記念寫眞展覽會開催といふのが御社の新聞に出たので早それに綠
柳白馬、グチ、落日の三點をブ롬オイル畫にして出品したものであります、推薦首席
になった綠柳白馬は去る九月上旬の午後でしたが、何か變つたものとレフレックスを

持ってぶらぶら船橋里から樂浪古墳筋の道路をうろつきましたが、これぞといふ處もないので歸へらうと行った道を戻って來ると永濟橋の袂の柳の下に神馬の様な白馬が草を喰んでゐたので殊に柳といふのがいつも私の心を引いてゐる柳なのですっかり気に入り、先づ地方色を力強く感ぜしめるために白衣の老人を拉してその白馬の側に

自然のポーズに立たせて寫したものです、特選首席の方は矢張九月中旬ぶらりと暇なので大同江畔に出て見ると恰度乾魚のグチの荷が這入った處であり [ママ、あまりカ] 單純ながら編んで店先にぶ下げる處、何となく朝鮮獨特の氣分が出て來たのでレフレックスを向けたものです、もう一つの落日の方は現像するのにまたレフのロールフィルムが二枚ばかり残ってゐたので、無駄にするのもと思って夕方船橋の堤防付近に出掛けてみると堤防のポプラの樹と眞紅夕焼け空に畑を耕してゐる農夫が一寸畫題になりそうなのでその農夫を頼んで畫に入れたのでした。これも漸やく藝術寫眞といふものにあこがれを以て來た私にとっては

非常に心ひかれて作畫したものでした、しかし二點までも首席に當選するとは夢にも思つてゐませんでした。まあ他に優秀な方々の出品がなかつたから僥倖にして當選させて頂いたものと思います (寫眞は福島氏)

1934年 10月 24日 석간 3면

パンチャン 『特選』 平壤 福島柳也氏作

1934年 10月 24日 석간 3면

推薦作

までを語る

羅津 水野正利

別に感想とてありません、それが推薦二席の報に接し實に心外の至りです、『ポートダビット』は羅津港碇泊中の船舶を見學に行った際甲板上にて、雲間より

流れたる太陽の光を受けたダビットを発見、無意識にシャッターを切り家に歸へって、現像致しました處、原板が餘りのフラットにはガッカリ致しましたがなんとなく、仕上げて見度くありましたからプロムオイルに仕上げた處

幾分ダビット発見當時の気分が出ましたから京城日報社の聯盟結成に双手を上げて賛成致して居る私として第一回の展覧會であるから是非一枚でも出品せねばならぬと思ひ、出品した印畫が推薦の榮を得て非常に感謝して居ります（寫眞は水野氏）

1934 年 10 月 25 日 석간 3 면

” 胡弓 ” 特選 元山 岸井保氏作

” 胡弓 ” の由來

特選 岸井保氏談

【元山電話】 『胡弓』 の印畫を出品して特選の榮譽を贏ち獲た岸井保氏を東拓元山支店に訪へば十九日附本紙朝刊推薦及特選寫眞發表欄の切り抜きを手にして流石に包み切れぬ喜びを浮かべながら語る

大連からこちらに参りました時何等同好者の機關のないことを驚き非常に寂しく感じてゐた折柄、御社の河野さん方の御骨折りで朝鮮寫眞聯盟が創立されたことを聞き非常に喜んだ次第です、私は日本の權威とされたる東京寫眞研究會に十年前入會し今日も會員として其指導を受けてゐますが二三度同研究會展に入選したことがあり昭和六年頃大連市に居ました時、私等の主唱で全支那寫眞聯盟を創立したこともあります、私の出品『胡弓』は大連に居る時撮った舊作品で關東州普蘭店に参りました時或市街で一人の胡弓弾きを圍って聞いてゐた人輪の中から或る一人の瓢 [ママ、剽カ] きん者が飛び出し、胡弓弾きから胡弓を取り上げて弾かうとした時其の友人がお前弾けるかと問ひかけたら弾けるよと件の友を見返へしてニッと笑つた其のポーズと表、光共に如何にも自然であつたので、シャッタを切つたのでした、爾來原板を其のまゝにしまつて置いたのを今度の發表を見て二週間に亘つて幾枚も幾枚も焼いた其の内から自選して出品したもので入選の自信はありましたがまさか特選に這入らうとは思ひませんでした（寫眞は岸井氏）

1934년 10월 25일 조간 7면

冬 (特選第三席) 京城 清原辰男氏

1934년 10월 26일 석간 3면

第一回寫眞展を見る (上)

堀内琴月 【寄】

全朝鮮寫眞聯盟主催第一回寫眞展覽會は廿日より開催されたが會場の作品百餘點ぎっしり場内を押し頗る盛大であった、茲に紙上を借りて個々の作品に付て妄評をこゝろみることを謝す、多忙の參觀者多數の爲と極短時間するすると素通したようなもので、記憶に残っているものは少数である、それすら印象を辿って評するのだが、作家諸兄に無禮なることはあらかじめお赦を願ひます

▷ ◁ ▷ ◁ ▷ ◁

推薦の首席に選ばれた福島柳也氏の

綠柳白馬は、選者の最高點をおくったものであるから佳いものであるには違ない、綠柳の下での白馬と白衣の老人取材そのものが、すでに浪漫的で、そして童話的な感じのする情景であった、かうして情緒的な畫風は、可成一般向のする畫ではあるが、何故か此の作品に評者は興味を惹かれなかった、水野正利氏の

ボートダビットは新興イズム豊富なる作品であったそして大膽な線とマッスの濃淡に依って表示されてゐる近代的感覺を持った作品であった、評者の望みたいことはもっと強い對象物の正確な表現である、作者の意圖は此の大膽な畫面の構成に不向な先の階調にとらわれ過ぎた傾があった、重量的な強い味は此の畫の生命である、調子に於てもっと硬調でこの作品に相應しい力強い表現が欲しかった、そしてプロモイル手法に依って反って新鮮味を壊してゐる福島柳也氏の

パンチャンは首席の作品から見ると非常に地味な畫風のものであった、吾々は此の作品に接し痛切に感じることは地味な作風夫自身は決して作品の内容價値を左右するものではないといふことであった、ピグメント原畫に依って活かされた作品であった、岸井保氏の

胡弓は取材の取扱は気に入ったが、技巧の拙さとトミング [ママ、トリミングカ] 等に何等の注意もはらってゐない點で作畫的資格を缺いてゐた、この原畫に對して手の行き方は

實に重要な役目である、然し其の手は何等生氣のない人間の手とは思へない拙さであった清水 [ママ、清原カ] 辰男氏の

冬は単純な構圖に作者の意識的な作意はうかがひ得る、だがこの柱の構圖の作畫は今まで餘り多く見過ぎてゐた點に、作者として損な作畫であった、それよりか同氏作

山の曉に興味を惹かれた傳統的な日本畫等から感受する所の味、作者はそれを率直に直截に表現してゐて、しかも靜かな落ち着いた曉の雰圍氣が此の作品に内在する美を一層價值付けてゐる、下部の草は切斷する方が單純化されより効果的であったかと思つた、單に評者の好みかも知れないが西島寅五郎氏の

煉瓦燒は評者の最も興味を惹かれた作品であつた、表現も充分であり内容も豊だ實に魅力的な畫であり迫力のある畫で場内でも光つてゐた、心から讚辭を呈する

1934年 10月 26日 석간 3면

「煉瓦燒」 特選 羅津 西島寅五郎氏作

1934年 10月 26일 조간 11면 기사

干網 特選 京城 清水孝作氏作

1934年 10月 27일 석간 3면 기사

第一回寫眞展を見る (下)

堀内琴月 【寄】

清水孝作氏の

干網は無難な作品であるの一言に盡きる、主觀にも客觀にも魅力の弱い平凡な作品であつた、吉水前氏の

收穫は自然の情景を寫眞的に捉へ、それを率直に表現した處に寫眞としてのよさが多分にあると思ふ、畫面は點線にて雜然としてゐても然も圖案的な印畫的統一をなし、季節感も可成よく表現されてゐて、眞摯な描寫であつた、かうした寫眞畫に純寫眞の境地が開拓されるのではないかと思ふ、惣門明二氏の

ポートレートは強いローキイトーンの中に顔面だけ明い調子を扱った力のこもつた作品であつた、だが餘り畫面が暗過ぎるので此の畫は不利となつた、バクレタチンに依つて背景に極僅かな明りを加へれば見違へるようによくなつたらうと思つた、藤井雅男氏の

靜物ダリアは植物の性能をリアルな描寫で巧に取入れてゐた、トミリーグ【ママ、トリミングカ】も纏つてゐて、構圖上の缺點は少しもなく花の立體感もよく表現してゐるが、唯だ暗部の調子が壊されてゐたのが此畫には大きな缺點であつた、土平益氏の

町の出來事は群衆の一線を眺めてゐる顔の動きに面白味があつたけれ共此作品の訴へて來るものが不足であつた、田中郷甫氏の

靜物は形式美の作品であつた、生魚がもつ特殊な感觸はよく描寫されてゐた調子に依つてもっと活されるのであつたが遺憾だつた、山田肇氏の

寂は落付のある作品であり構圖の纏りにも非凡な手腕を示してゐた、唯だ畫面全體がハーフトンで光に魅力が乏しかった岡田先行【ママ、光行カ】氏の

或日の窯場は山田氏の『寂』と共に靜物畫としての完璧的なものであつた、殊に同じ物體を主題とし、前者はローキ調で錆を見せ後者はハイキートーンでたくみな線を捉へ共に評者の好める作品であつた、玄一榮【ママ、一英カ】氏の

生きてゐる【ママ、ゐる間カ】は一見して平凡なるかの如き畫ではあるが、靜かに眺めてゐるとセンチメンタルな情景であり、亦内容に迄延長した佳い畫であつた畫題に一考慮を要したい

1934年 10月 30日 석간 3면

全朝鮮寫眞聯盟創立展を顧みて

山澤三造

幾百、幾千の半島寫眞同好者多年の念願であり、待望であつた全朝鮮寫眞聯盟は去る七月斯道に最も深き理解を持たれる京城日報社の力に依つて結成されたのであつて、その聯盟創

▷◁

▷◁

我が寫眞聯盟が半島寫眞界の向上を圖るを目的として生れたのは僅か二、三ヶ月前の七月下旬のことで此の短期間に全鮮的の素晴らしい共鳴者を得て、今日その會員數實に四百五十名を突破せんとし殊に今回の全鮮第一回寫展が五日間に亘る會期中毎日場外に溢るるの盛況裡に終了したこと等併せ考へるに如何に半島寫眞界が眞面目な斯道の研究熱に燃えて居るかが窺はれ、洵に感激に堪へない次第である

▷◁

▷◁

靜かに第一回寫眞展を顧み、更に躍進せんとする我が寫眞聯盟の將來が益多幸なれかしと祈りつゝ擱筆する

1935 年

1935 年 9 月 6 日 조간 7 면

1935 年 10 月 10 日 석간 2 면

第二回 朝鮮寫眞サロン印畫募集

規 定

- 一、課題 隨意
- 一、大きさ カビネ以上（長邊六吋以上）
- 一、參加資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録済の團體員に限る。新に加盟希望の團體は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ申込み下さい
- 一、點數 一人何枚にてもよし制限なし
- 一、印畫締切期日 十月廿五日午後六時までに聯盟事務所へ到着すること
- 一、印畫提出に關する注意 A、作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの B、台紙は隨意とす C、印畫の裏面には參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員章の番號を記入し、住所氏名は一切書かぬこと D、印畫は一切返戻せず
- 一、印畫送り先 京城日報社全朝鮮寫眞聯盟事務所宛（賞品其他追って發表）

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1935 年 10 月 17 日 석간 2 면

全朝鮮寫眞聯盟主催 サロン印畫募集

この度全朝鮮寫眞聯盟創立一周年を記念するため第二回朝鮮寫眞サロンを華々しく開催いたすことになりました。ついては左記規定により會員諸君は奮って應募し、聯盟が行くべき前途に多々ますます光輝あらしめるやう御發奮を祈ります

- 一、課題 隨意

- 一、大きさ カビネ以上（長邊六吋以上とす）
- 一、点数 一人何枚にてもよし（制限なし）
- 一、参加資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録済の團體員に限る。新に加盟希望の團體（五名以上を以て一團とす）は京城日報社内の全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込み下さい。
- 一、**印畫締切期日** 昭和十年十月二十五日午後六時、右期日迄に京城日報社内朝鮮寫眞聯盟事務所に到着のこと
- 一、材料 自由とす
- 一、**印畫提出注意** (A) 作品は『展覽會』若くは公刊特〔ママ、公刊物カ〕に發表せざるもの (B) 台紙は隨意とす (C) 印畫紙の裏面には左の用紙（参加章）を密着し、本聯盟から交付してある各自の會員章の番號（昭和十年度の新番號を用ひること舊番號は一切無効）を記入し住所氏名は書かぬこと (D) 印畫は一切返戻せず
- 一、**印畫送り先** 京城日報社内全鮮寫眞聯盟事務所宛
- 一、**審査員** 山澤三造氏、坪川英士氏、河野佐市氏
- 一、**審査發表** 十月三十日

賞品

- 推薦（二名）** 李王職長官賞、二五九五年聯盟推薦カップ、京城日報社賞、賞狀（一名）
◇學務局長賞、二五九五年聯盟推薦カップ、京城日報社賞、賞狀（一名）
- 特選（五名）** 一九三五年聯盟特選賞一個宛、京城日報社賞一個宛、賞狀
- 入選（一〇〇名）** 一九三五年聯盟賞、賞狀
- 一、**展覽會** 十一月一日より五日まで五日間京城三越に於て記念展を開催し、終了後は地方に於ても開催

1935 年 10 月 30 日 週間 7 頁

第二回寫眞サロン

百七點が入選

一日から三越で展覽

かねて募集中であった全朝鮮寫眞聯盟の一周年を記念する第二回朝鮮寫眞サロンの印畫は廿五日締切ったが、會員諸君の應募數六百に達し聯盟結成一周年を迎へたばかりなのに、す

ばらしい躍進振りを示した、聯盟事務所では廿八日正午から本社來青閣で山澤、坪川、河野の三審査員によって嚴選の結果、左記の百七點が榮の入選と決定した、これらの入選作品の展覽會は十一日一日から五日間、京城三越ギャラリーで開催する、入選の諸氏左の通り

推薦と特選

推薦一席 夕焼け小焼け 咸興 鷺坂東
推薦二席 寫る映像 京城 島田常雄
特選一席 K 氏像 鎮南浦 李泰敬
特選二席 濱邊 羅南 岡田光行
特選三席 裸童 木浦 藤井雅男
特選四席 水車 京城 佐藤新吉 [ママ、信吉カ]
特選五席 仔猫 平壤 國弘箕一郎

入選

▲流水藤井雅男（木浦）▲初秋の感覺同人▲港の朝同人▲白鳥同人▲船名を書く男柿元一（同）▲靜物同人▲靜物藤井雅男（同）▲煙突同人▲ケキチャンサ同人▲灼熱同人▲波紋を残すもの柿元一（同）▲沖のかもめ同人▲汽船同人▲水あそび岡本轍（京城）▲無題齋藤晴次（同）▲作業野寺誠次郎（同）▲秋岡田光行（羅南）▲埠頭所見岸井保（元山）母と子白倉徳明（沙里院）▲もろこし同人▲妹大浦一夫（京城）▲堰落つる水中川薫（茂山）▲惜春高田徹五（咸興）▲波に戯る同人▲海岸風景同人▲氷船山田義人（同）▲ボート同人▲キャベツ鷺坂東（同）▲砂上に歩む品川通夫（洪原）▲無題同人▲線と光相馬重義（平壤）▲給油高田清平（京城）▲宕巾高田知一郎（同）▲靜物長野喬一（同）▲街頭スケッチ道原正夫（同）▲雨の交叉點同人▲深みゆく秋埋金磨（大邱）▲習作同人▲海の風景野田聖吉（京城）▲揺ぐ白帆齋藤柳城（平壤）▲流線植田早太（同）▲池畔福島一雄（同）▲晩秋同人▲爺同人▲倉庫町の午後久保主計（同）▲網伊藤恭一（鎮南浦）▲投網内藤豊（同）▲造船場伊藤恭一（同）▲波頭岡田光行（羅南）▲伊達姿生田武（京城）▲靜物大沼幸壽（同）▲曉雲（同人）▲光旭忠雄（同）▲朝の陽ざし杉田鍛雄（鳥致院）▲祭禮山根次述（京城）▲男性美同人▲線と光同人▲丘松成賢平（同）▲夕餉の頃市來崎武二（安東縣）▲花同人▲盛夏山崎治作（同）▲黄昏の合唱藤田悅佑（江景）▲收穫同人▲ボート清水久俊（興南）▲初夏富永國太（同）▲緋鮒永井忠（京城）▲O 氏像清原辰南 [ママ、辰男カ]（同）▲窓市島九郎（同）▲朝同人▲ポートレート朴弼浩（同）▲靜物岸如水（同）▲山里の朝長濱能得（同）▲ベートペンの性格的表現飯塚十郎（同）▲構成長谷川太郎（同）▲斜陽廣川良一（同）▲パカチの秋同人▲よし坊緒方泰象（同）▲ポートレート同人▲朝原田幸雄（同）▲

秋草刈り保坂國平（同） ▲船の一角米田勇（同） ▲颯爽と中根秀（同） ▲夕立晴れて假家治三郎（同） ▲静日河畔若林嘉茂（同） ▲轟島にて細田倫平（同） ▲流線型齋藤茂（同） ▲スキー場の朝島田常雄（同） ▲船同人▲港の印象同人▲爺や秋葉秀彌（同） ▲新秋大川眞之助（同） ▲池邊黒住一徳（同） ▲静物李泰敬（鎮南浦） ▲満州廟風景水野正利（羅津） ▲霧の部落同人▲少女同人▲老人郡司昇（同人▲曇り日の海濱水野正利（同） ▲静物秋葉秀彌（京城） ▲丘の印象村田保（同）

審査評

審査員 坪川英士

今回は課題が自由であったためか非常に応募点数が多く、しかも力の籠った作品ばかりで選外とは云へ技倆伯仲のもの多く何れを佳とするか少からず苦しみました、不幸選外となった作者の爲めに妄評を許して戴きます

風景の作品は一般に慾ばりすぎ自己の主眼とするものが弱ってゐる傾きがありました、トリミングの研究が必要と存じます

静物の作品も随分有りましたが多くは物品の配列ばかりに捕はれて光の採り方に注意を拂ってゐない様に思ひます、平面の光をさけて物體が單調にならない様、採光に注意しなければならぬと思ひます

人物に至っては型にはまったものでなく、もっと自然の人物を表はす様に研究して欲しいものです、最近寫眞畫の傾向が著しく區別されるだけの情調を帯びて參りました、現在ではもっと突込んだ境地に於て、感じの鋭い、力のある、明るい生き生きとした作品をお互に作りたいものです

審査雜感

審査員 山澤三造

寫眞聯盟創立後漸く一年しか経ってゐない、然るに今回のサロンに於て、応募總數實に六百点を越すといふ驚異的な盛況であった。而も各作品とも作意を窺ふに足る力作揃ひであり、それだけ嚴選を重ね、落すに忍びない優秀作も可成り多かつたが、數に限りがあるので惜しくてならなかつた

尙痛切に感じたことは、地方の躍進振りである。昨年の第一回展に於ては、地方作品が京城に比し、比較にならぬ程劣ってゐたが、今回は寧ろ地方に優秀作の多く見受けるに至ったことで、これは確に聯盟の存在が與つて力あると深く信ずるものである

これら選ばれた作品を通じて朝鮮寫壇を窺ふに、應募者が寫眞本來の使命といふことに、餘程考へるやうになつて來た傾向である。只漫然と作り上げるといふでなしに、如何に光の美を捉へるか、如何に瞬間的氣分を再現するかに腐心されてゐるやうだ。繪畫の模倣時代を清算して寫眞器を驅使し、自然を見直すといふ新興氣分も加へて來た、恰も新興朝鮮の躍動と相まって寫眞藝術の躍進振りは、實に目覺ましいものである

例へば、推薦一席に推した鷺坂氏作『夕焼け小焼け』は視野が大きく、よく纏めた生々した雰圍氣に溢れた、眞に、心を打つ上乘の作といへよう。唯難をいへば畫題は好かない。推薦二席島田氏作『寫る映像』は都會生活者の秘められた都會美の探究であり、よき表現である。氏の頭腦の鋭さを物語つてゐる。特選及入選、それぞれ作者の意圖が表はれてゐて、立派なものが多い。その他捨てたものゝ中にも、陳列場所が廣かったら取り度いものが多かつた斯く質に於て數に於て朝鮮寫壇の將來に大きな期待をもち得るものである

1935年 11月 2日 週間 1面

秋の寫眞サロン

十一月一日から五日まで三越ギャラリーで展観

全朝鮮寫眞聯盟

推薦一席 夕焼け小焼け (上右) 咸興 鷺坂東

推薦二席 寫る映像 (上左) 京城 島田常雄

特選一席 K氏の像 (中) 鎮南浦 李泰敬

特選二席 濱邊 (中左) 羅南 岡田光行

選三席 裸童 (下左) 木浦 藤井雅男

特選四席 水車 (中右) 京城 佐藤信吉

特選五席 仔猫 (下右) 平壤 國弘箕一郎

1935년 11월 3일 석간 3면

賑ふ寫眞聯盟展（一日から三越ギャラリーで開催）

1936 年

1936 年 9 月 4 日 석간 2 면

第三回 朝鮮寫眞サロン 印畫募集規定

- 一、課題 隨意 使用材料も自由
- 一、大きさ カビネ以上 (長邊六吋以上)
- 一、參加資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録ずみの團體員に限る。新に加盟希望の團體は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ申込み下さい、五人以上の會員でつくってゐる寫眞の會なら、どの會でも入會を歓迎します
- 一、應募點數 一人何枚にてもよし、制限なし
- 一、印畫締切期日 十月二十五日午後六時までに聯盟事務所に到着を期すること
- 一、印畫提出に關する注意 A、作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの B、台紙は隨意とす C、印畫の裏面には參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員章の番號を記入し、住所氏名は一切書かぬこと D、印畫は返戻せず
- 一、印畫の送り先 京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所宛
(賞品、其他追って發表)

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1936 年 10 月 22 日 석간 2 면

全朝鮮寫眞聯盟主催
寫眞サロン印畫募集
その締切り日は迫る!

この度全朝鮮寫眞聯盟創立三周年を記念するため左の如く第三回朝鮮寫眞サロンを華々しく開催します

課題 随意

大きさ カビネ以上（長邊六吋以上とす）

点数 一人何枚にてもよし（制限なし）

参加資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録済の團體員に限る新に加盟希望の團體（五名以上の會員でつくってゐる寫眞の會）は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込み下さい、會費は一ヶ年地方は一圓五十錢、京城は三圓です）

印畫締切期日 十月二十五日右期日迄に京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所に到着のこと

材料 自由とす

注意 (A) 作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの (B) 台紙は随意とす (C) 印畫紙の裏面には右の用紙（参加章）を密着し、本聯盟から交付してある各自の會員券の番號（昭和十一年度の新番號を用ひること舊番號は一切無効）を記入し住所氏名は書かぬこと (D) 印畫は一切返戻せず

印畫送り先 京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所

審査員 山澤三造氏 坪内〔ママ、坪川カ〕英士氏 河野佐市氏

審査發表 十月卅日

賞品

推薦 (二名) 李王職長官賞（一ヶ年保有）二五九六年聯盟推薦カップ、京城日報賞、賞狀
（一名）學務局長賞（一ヶ年保有）二五九六年聯盟推薦カップ京城日報賞、賞狀（一名）

特選 (五名) 二五九六年聯盟特選賞（一個宛）京城日報賞（一個宛）賞狀

入選 (一〇〇名) 二五九六年聯盟賞（一個宛一〇〇名）賞狀

展覽會 十一月一日より五日まで五日間京城三越に於て記念展を開催し終了後は地方に於ても開催

主催 全朝鮮寫眞聯盟

（事務所 京城日報社内）

1936年 10月 31日 석간 2면

第三回朝鮮寫眞サロン

入選入賞發表さる

一日から三越で展覽會 全朝鮮寫眞聯盟主催

△入賞……七點▽

推薦

(李王職長官賞) 水邊 安東寫友會 厨嘉三

推薦

(學務局長賞) 老松 平壤鐵道寫眞同好會 原田穰

特選 出發 木浦蜻蛉會 川越 [ママ、河越カ] 太郎

同 芋の葉 大邱寫友會 古賀義徳

同 光映 京專光畫會 相馬一夫

同 愛 木浦光畫研究會 藤井雅男

同 斜陽 朝鮮寫眞會 飯塚十郎

△入選……一〇〇點

▲熱火 (木浦光畫研究會) 藤井雅男 ▲樹氷 (同) 藤井雅男 ▲初秋 (同) 藤井雅男 ▲みのり
(咸興寫眞俱樂部) 張仁奉 ▲天高し (木浦光畫研究會) 高橋誠一 ▲春の動き (木浦光畫研究
會) 篠原勝利 ▲殘雪 (同) 篠原勝利 ▲果物 (咸興寫眞俱樂部) 品川通夫 ▲淡雪 (鐵道局寫眞
同好會) 佐藤信吉 ▲靜物 (同) 佐藤信吉 ▲キミチ漬ける頃 (京城京專光畫會) 黒住一徳 ▲影
(新義州寫友會) 小沼淺次郎 ▲蛙 (同) 小沼淺次郎 ▲秋空高く (京城京專寫友會) 相馬一夫
▲發車迫る (京城朝鮮寫眞會) 中根秀 ▲夏雲 (平壤鐵道寫眞同好會) 原田穰 ▲秋 (平壤鐵道
寫眞同好會) 高野松治 ▲初夏 (平壤朝鮮寫眞會) 田中國雄 ▲貝を拾ふ (同) 田中國雄 ▲幼女
(京城朝鮮寫眞會) 中根秀 ▲山羊 (京城京日寫友會) 深井良石 ▲線 (仁川ウッサウ會) 田邊
三次 ▲秋の表情 (羅南カメラ會) 會田徳太郎 ▲落日 (同) 岡田光行 ▲農村風景 (同) 良木重
男 ▲靜物 (同) 岡田光行 ▲香魚 (晋州探光會) 澁井吉三郎 ▲暮れ行く池畔 (同) 澁井吉三
郎 ▲日廻り (鎮南浦カメラ俱樂部) 吳炳道 ▲電工夫 (同) 河村邦夫 ▲晚秋 (同) 河村邦夫
▲江岸スケッチ (同) 内藤豊 ▲露路に (京日寫友會) 鈴木源太郎 ▲露路 (同) 鈴木源太郎
▲水蓮 (同) 森達雄 ▲燕百態 (鎮南浦カメラ俱樂部) 片島健二 ▲ポートレート (同) 同 ▲砂

丘（同）伊藤恭一▲赴戦高原の雲海（咸興寫眞俱樂部）鷺坂東▲みのり（同）永次貫次▲靜物（同）山田義人▲あひる（同）鷺坂東▲シュプール（同）同▲池邊（同）同▲シグナル（京日寫友會）安正次▲秋晴れ（京城日本航空寫友會）羽泉清一郎▲春の雪（同）羽泉清一郎▲糸を送る（木浦光畫研究會）内谷和靖▲朝風ぎ（同）内谷和靖▲スタンド（木浦光畫研究會）西尾儀太郎▲夕陽（同）同▲秋（京城朝鮮寫眞會）古林清方▲滯の潮風（木浦寫眞俱樂部）任順泰▲耕作（平壤朝鮮寫眞會）箕田健次▲晩秋（平壤涇江クラブ）久保虹城▲氷上に漁る（同）同▲順風（同）同▲天高し（同）齋藤柳歩▲青空に舞ふ（同）福島柳也▲晩秋（同）同▲戶外靜物（京城朝鮮寫眞會）高田清平▲建設へ（京日寫友會）永田正信▲ともろこし（同）同▲さわぐ秋風（京城朝鮮寫眞會）山田主夫▲干潮（平壤五月會）徐淳三▲朝（京日寫友會）東郷延廣▲松風（平壤五月會）徐淳三▲秋晴（同）同▲初秋（同）同▲無題（京日寫友會）小崎正男▲氷雪の殿堂（朝鮮アマチュアムービー）飯山達雄▲にぶる光（同）同▲朝霧（京日寫友會）高田知一郎▲秋日（同）末永治作▲或る日の工夫（同）同▲馬車は行く（安東寫友會）野川久夫▲張老人（同）布村久作▲雪景（同）厨嘉三▲靜物（同）市來崎武二▲入江のほとり（春川）高平破魔男▲ポートレート（A）（京日寫友會）森信治▲水邊秋色（同）宮崎晴次▲實る秋（同）同▲秋蠶（咸北鏡城光畫會）中村圓治▲良く晴れた日（京城朝鮮寫友會）鄭炳鉉▲夕暮の海（仁川ウッサウ會）小山喬▲小雨（鐵道局寫眞同好會）浦野進▲波に戯る（京城朝鮮寫眞會）飯塚十郎▲驀進（平壤涇江俱樂部）上木龍三▲朝の文化住宅（同）同▲祭の印象（興南朝室寫友會）吉水前▲秋（咸興寫眞俱樂部）張仁奉▲夕陽迫る頃（大邱寫友會）中島甲馬太▲ポートレート（大邱寫友會）埋金磨▲黍（同）町田久吾▲コスモス（同）同▲庭址（同）森本太郎▲初夏の或る日（同）古賀義徳▲木蔭（同）津村浩司▲晩秋（同）中島甲馬太

1936年 11月 1日 석간 5면

朝鮮寫眞サロン

十一月一日より五日迄三越で

全朝鮮寫眞聯盟主催

全朝鮮寫眞聯盟の會員一千七百名を總動員し、昭和十一年度の寫眞朝鮮を記録すべき朝鮮サロンは愈よ十一月一日より五日間京城三越で開かれ續いて朝鮮各地で開かれるが、この審査會は二十八日聯盟事務所が開かれた、出品總數千二百餘點、空前の盛況を見せ、全鮮各地

とも一齊に素晴らしい向上を見せ、いづれをどうする事も出来ない秀作揃ひであった、残念なことに會場の陳列關係その他で入選は百點、入賞七點と限られてゐるので、やむなく各審査品は慎重に苦心を重ね左の如く入選入賞を決定した、何分いづれも非常に出来ばえであったのでどれを落すかといふことについて一通でなかった

それは全く夢のやう

推薦 安東寫友會 厨氏談

李王職長官賞の吉報を齎らして安東縣六番通り六丁目に厨嘉三氏を訪ふ

『出した寫眞は十一點ありますそのうちどれが當ったのか私には判りませんが李王職長官賞を得たとは全く光榮です昭和九年春頃から安東寫友會に加入してやっとやり出しました、しかも廿五日の締切日なのにやっと作品をまとめあげて慌しくも廿三日に安東を出した次第です、これが當選とは全く夢の様な氣が致します』

謙遜な氏は自己の自信タップリな技術を恰も運よく獲得したかの如く語り、多くを語らなかつた、なほ氏は安東一流料亭『松葉』の主人公で朝鮮銀行安東支店に勤めてゐる温厚篤實、寡黙の人である（寫眞は厨嘉三氏）

十年の苦心酬はる

推薦 原田氏談

平鐵寫友同好會員原田讓君を平壤驛貨物係室を訪ふ

これでやっと私の念願が叶ひました、寫眞をはじめて實に十年近くにもなりますが、未だ一度だって入選したことがないといふ惨めさです、自分の頭を疑ひながら、せめて一度はカップを取りたいと精進して來ました、これで自信がつかしましたから今後は大いにやりませう、これも事務所（平鐵）の高野さんの指導よろしきによる賜物です『老松』といふ題名にも苦心しました、幾度も題を變へてみたか知れませんが、やはりこれがびたりと合つてゐるやうな氣がして締切り間際に出したものです、一度は推薦になつたが後は落選ばかりだといふやうでは駄目ですから一生懸命に勉強します（寫眞＝原田讓氏）

木浦に光る
藤井雅男氏談

特選の吉報を藤井雅男氏にもたらず

『愛』が特選とは豫像外です、製作に苦心したゞけ『熱火』及『仲よし』に期待していましたが然し末席乍ら榮冠を得どうか光畫會と先輩古谷氏に申譯が立ちました、それにしても木浦から河越氏と共に特選に入選した事はよろこばしい事です、次回こそは大いに頑張りませう、作畫に當っての感想と申しますれば只無心な愛兒をしっかり抱いて乳首をあたへる母性愛の深みと、その情景を表現したく努力したものです、ローライフフレックスにパナトミック、オパールB伸です

因に藤井氏は營農を業とする三十二歳の純アマチュアで昨年の第二回サロンに特選となりまた入選入と云ふ成績で木浦寫眞會の爲め貢献して居り引續き更に本年劈頭本社主催勅題懸賞に三等入賞を初め春の廣告寫眞に三點入賞外推薦特選準特など六點入選十一と云ふ素晴らしい成績を得て居る努力作家である（寫眞藤井氏）

木浦光畫の
河越太郎氏談

特選の河越太郎氏を米穀検査所々長室にとふ、氏は朗らかな笑顔をにて語る

全く僥倖です私のやうな未熟者が數多の先輩諸氏に伍して同列に並べさせて戴いたことは何んとなく恥しくきまり悪いやうな氣がしてなりません光榮に存じます私どものやうにいつも他に多忙な職場を持ってゐる者は最も手近な日常生活の中に詩や歌や光線の美を發見しなければなりません、今回のこの寫眞も秋晴れの或る日曜日子供の守をしながら近所の丘に散歩に行った時の作の一つですが子供は野外に出ると非常に喜び勇んで小犬のやうにピョンピョンとび廻ります、動作は急テンポに變化して行きます、向ふの小高い丘の草原に早く行って見ようと大聲で母親の出發を促し叫んだ瞬間シャッターを切りました、畫面に子供の心境が表はれてゐれば幸甚に存じます、尚ほ木浦に藤井氏のやうな確實な先輩のあることは何んと云つても吾々の光明です

京專光畫會
相馬一夫氏談

私のが特選に入選とは實に有り難い、あれは九月二十七日に往十里のライジンサンの大タンクを撮影したもので、光線の関係で前後三回同じ所へ行って撮影しました、光線の採り方と仕上には私の力の盡せるだけはやってみた譯です、私の愛機ホスデルビーはいつも私のポケットにゐます、寫眞は昨年の中月中旬からやって居ます（寫眞は相馬氏）

朝鮮寫眞會

飯塚十郎氏談

落葉と影が實に面白かったので木の上に登って點景人物の來るのを約一時間待つて居たのにその目的物が來ましたからシャッターを切ったものです、それが特選に入選とは悦ばしい、愛機はセミコンタです（寫眞は飯塚氏）

大邱寫友會

古賀義徳氏談

特選に入賞した古賀義徳氏は大邱東門町に開業してゐる齒科の先生である、大邱に於ける趣味藝術寫眞界の先輩で餘暇を見てはその醍醐味に陶醉し又同好者のためにもよき友として斡旋指導に當つてゐる人である

寫友會で出品の下見の時にはまあ佳作だね位の評でしたが、十月の初め頃友人宅を訪問した時ふと眼に映じたものが只一本植ゑられてゐたこの芋の葉でした折柄葉に夕日を一杯浴びて鮮やかな緑に輝きユラリユラリ風にゆられて居る様が何ともいへない風情なので近づいてみると葉脈まではっきり現はれ、しかも■ツクは暗く他に障害物もなく堪らなく心を引かれたので、何時も携帯してゐるヴェスト二分の一のゴルディ―にコダックフキルターを用ひ思切り近寫したもので、その殆ど全面を伸したものです（寫眞は古賀氏）

1936年 11月 1日 석간 5면

審査を終りて

山澤三造

全朝鮮寫眞聯盟の創立したのが遂昨日のやうに思つてゐたが、最早三年を迎へるやうになり、その會員數は實に千七百名を突破せんとしてゐる

さうして今回その三周年を記念すべく第三回朝鮮寫眞サロンが開催され去る廿五日を以て應募印畫を締切つたのである、右期日までに到着したのが千二百點を越えたといふ、朝鮮として未だ曾つて見ざる驚異的な盛況さであつた

而も各作品とも力作揃ひでその審査に當り或種の壓迫感を覺ゆるものがあつた、即ち文字通りの嚴選であり、落すに忍びない優秀作を如何に處置するか迷はされた、會場が許すならもっと採りたいものが多かつた

今回痛切に感じたことは小型カメラの機能をよく理解して如何に驅使するかを餘程苦心された跡が覗はれ嬉しく思つた、兎角一般寫壇を通じて、小型カメラの將來を云々されつゝある今日よくその長所を生かし、寫眞本來の使命に躍進せんとする眞摯さに敬服する、是非さうした態度でより一層精進され、廣く寫眞藝術界の向上をはかつて貰ひ度い

選ばれた作品を通じて、現在の朝鮮寫壇を窺ふに、寫眞聯盟創立以前の成績とは將に劃期的な飛躍振りで格段の進歩を示してゐる

『カメラに使はれずにカメラを使へ』さうした態度で撮られた數多くの優秀作に接した時には無限の嬉しさに感激した、躍進朝鮮を宣揚する大懸賞寫眞の締切日も追々迫つて來る、我等の朝鮮を最もよく理解し認識してゐる同好家に一層大きな期待をもつてゐるのである、即ち質に於て、量に於て信じて疑はない

1936年 11月 2日 석간 1면

半島寫壇の誇り

◇第三回朝鮮寫眞サロン入選作品◇

けふから京城三越で展覽會

【上右】水邊 推薦（李王職長官賞） 安東寫友會 厨嘉三氏作 【上左】老松
推薦（學務局長賞） 平壤鐵道寫眞同好會 原田穰氏作 【下右】出發 特選 木浦蜻蛉會
河越太郎氏作 【下左】特選 大邱寫友會 古賀義德氏作

1936年 11월 2일 석간 2면

賑ふ寫眞サロン展
五日まで京城三越ギャラリー

1936年 11월 2일 조간 3면

朝鮮寫眞サロン開かる
來る五日まで京城三越ギャラリー
主催 全朝鮮寫眞聯盟

1936年 11월 7일 석간 4면

全朝鮮寫眞聯盟主催寫眞サロン
特選 斜陽
朝鮮寫眞會 飯塚十郎氏作

1936年 11월 8일 석간 4면

特選 愛
木浦光畫研究會 藤井雅男氏作

朝鮮寫眞聯盟主催
寫眞サロン出品

1936년 11월 10일 석간 4면

全朝鮮寫眞聯盟主催寫眞サロン出品
特選 光映
京專光畫會 相馬一夫氏作

1937 年

1937 年 10 月 29 日 週間 7 面

1937 年 11 月 3 日 週間 4 面

全朝鮮寫眞聯盟

昭和十二年度

寫眞サロン出品募集

展覽會期日【十一月十九日—廿三日】

會場 三越ギャラリー

◇出品寫眞は題材、使用材料等一切自由 ◇公開の展覽會及び印刷物等に出品又は發表せざる作品に限る ◇大ききキャビネ型以上 ◇參加資格は全朝鮮寫眞聯盟加入の會員たる事 ◇出品寫眞には印畫紙の裏面に參加章をはりつける事（參加章は今月中に各加入團體の代表者の許に送ります、參加章をはりつける時は、印畫紙の直接裏面にはって下さい、台紙にはると台紙をのけた時にわからなくなりますから注意の事） ◇募集締切十一月十一日 ◇賞品賞狀は例年通り ◇審査員は追て發表

本年度カメラ收穫の精華

後援 京城日報社

[참고 기사] 1937 年 11 月 3 日 週間 4 面

晩秋初冬の自然美

カメラを向けるに絶好の季節

戰時體制下にある今日誰しも悠長な気分はありません、それでも、自然界を一瞥すれば秋深しといった感じを味はふことが切であります、" 菊を採る東籬の下、悠然として南山を見る " の悠長さはなくとも、レンズの向ふところ、そこに秋の日のしばし愉快が味はひ得られませう

□ □ □

一日中なごやかな日射しに恵まれて、被寫體に快い階調を以て描き出されます、骨折らずして良い繪の出来る好季節、現像、定着、水洗等に於てもまた、同様に適度の水溫は眞夏嚴冬に於ける如き何等の冷却加溫或ひは硬膜等の必要もありません、まことに簡単に處理をたのしめる最も適當な時期です處方の比較、處理法の研究、繰返して最適の方法の發見も比較的容易に行ふことが出来ます

□ □ □

さて寫すべき風物も實に豊富です——今こそ吾々は到る所、野に山に、都會の鋪道に、村の小路に深みゆく秋の詩を讀みとることが出来ます、カメラを向ければ、それはそのまま一幅の繪となって高雅な趣味を無言のうちにアルバムの上に語ることでありませう

□ □ □

農村の秋の收穫の喜びそれから、都會では冬服になった女性のスナッフは、アルバム對向面で面白い陰翳を醸し出すことゝ思ひます

□ □ □

さて落ち着いて居られない憂國の士は、努めて元氣な銃後の熱誠の姿を適確いカメラに收めて慰問文と共に戦地に送っては如何でせう、但し軍機、作戰、用兵に害あるもの、士氣を沮喪させるおそれあることはいふまでもなく書くことも寫すことも嚴禁です

□ □ □

最後に毎朝、毎夕、適切正確なるフォトニュースによりその身北支或ひは上海方面にある想を起させ思はず皇軍に對する感謝の念を新たにさせる從軍カメラマン諸氏の正に第一線の將士と同様の危険に曝されながらの文字通りの献身的努力に對して——感謝を捧げたいと思ひます

1937 年 11 月 5 日 석간 4 면

1937 年 11 月 7 日 조간 3 면

1937 年 11 月 11 日 석간 4 면

全朝鮮寫眞聯盟

昭和十二年度

寫眞サロン出品募集

展覽會期日 【十一月十九日—廿三日】

会場 三越ギャラリー

◇出品写真は題材、使用材料等一切自由 ◇公開の展覧会及び印刷物等に出品又は発表せざる作品に限る ◇大きさキャビネ型以上 ◇参加資格は全朝鮮写真聯盟加入の会員たる事 ◇出品写真には印畫紙の裏面に参加章をはりつける事（参加章は各加入團體の代表者の許に送ってあります、尙足らねば返信料を封入の上御申出下さい、参加章は印畫紙の直接裏面にはって下さい、台紙にはるとわからなくなります） ◇募集締切十一月十一日 ◇賞品賞状は例年通り ◇審査員は追て発表

半島写真藝術の最高峰！

後援 京城日報社

1937年 11월 17일 석간 4면

半島写真藝術の殿堂

第四回写真サロン入賞入選発表

主催 全朝鮮写真聯盟 後援 京城日報社

推薦

第一席 收穫 羅南寫友會 岡田光行

第二席 翁草 京城吉野町一ノ一〇四 高田知一郎

特選

見えたかい 水原農事試驗場 澁谷佐市

母と子 京城南大門通二ノ三三 モリノブオサム

靜寂 京畿道廳地方課 高平破魔男

物語 木浦大和町 篠原勝利

風船 木浦京町 内谷和靖

入選者

▲潑刺朝鮮寫眞會中根秀▲語れる農夫京專光畫會黒住一徳▲靜物木浦京町内谷和靖▲初夏と女性新義州道立醫院瀨頭謙二郎▲春の夕京城東四軒町四八ノ二成田誠▲秋朝鮮寫眞會山田主夫▲少女朝鮮寫眞會岸如水▲つばめ京城吉野町一ノ一〇四高田知一郎▲ぼたん同上▲高原の朝京城内需町一一〇中島強▲閑日同上▲一人ぼっち同上▲庭隅の春慶南金海楡林亭驛鹿島組鈴木源太郎▲猫安東寫友會山崎作次▲老頭兒同上▲雜草京城三坂通五〇藤田史郎▲堤を行く江陵寫友會林應植▲負るは勝ち水原農事試験場澁谷佐市▲みのり勝湖里寫友會石津儀人▲無題鎮南浦三和町七一内藤豊▲冬枯同上▲干網同上▲歡喜平壤鐵道寫眞同好會原田穰▲港の船同上▲無題木浦光畫聯盟高橋誠一▲みのり京城北米倉町一〇八清成隆郎▲菊同上▲波紋同上▲名殘の秋京畿道廳地方課高平破魔男▲黄昏の鋪道日の出小學校鈴木三枝▲光り日の出小學校池田法人▲さし網京城新堂町二〇四ノ三九川島梅靖▲半島空港京城大和町二ノ一八加谷廣二▲砂上同上▲閑日平壤涇江クラブ久保虹城▲秋同上▲ブドウ京城旭町翠山莊アパート楠田秀夫▲無題仁川ウッソウ會魚住一美▲岡を急ぐ同上▲ツラ、京城青葉町二ノ九兒玉長夫▲店頭 [ママ、店頭カ] のスケッチ京專光畫會杉谷博▲秋の水鍊光會清水五郎▲母なれば京專光畫會長谷川熙▲店頭の朝同上▲蓮同上▲緑と光京專光畫會相馬一夫▲靜寂同上▲菘麻子同上▲出發準備同上▲窯場風景羅南寫友會岡田光行▲朝もや羅南寫友會兒島三郎▲光と影京城觀水町一三二李揆完▲秋京城孝子町一七八梅本馨▲小春日和鎮南浦ゴルドーカメラ會金元善▲秋空に描く咸興寫友クラブ山田義人▲陽春咸興寫友クラブ永次貫次▲とーもろこし平壤進光クラブ上木龍三▲夏平壤涇江クラブ福島柳也▲秋の圖同上▲宿る雪鐵道局寫友同好會佐藤信吉▲婦人像木浦大和町篠原勝利▲大空に向ふ仁川山手町二ノ五濱井一郎▲朝の井戸端同上▲スタンドにて仁川山手町梶谷靜風▲秋同上▲パカチ同上▲干魚同上▲秋の丘仁川宮町七古瀬幸次郎▲水蓮仁川山手町河野琴舟▲曉の雪原龍山鐵道局浦野進▲往く春京城青葉町三ノ一〇八三橋康成▲荒物同上▲坂道京城南大門通二ノ九富野修治▲若葉京城大和町二永田一畝▲葛同上▲景福宮趾の寸景同上▲萬年青とカタツムリ同上▲チューリップ京城舟橋町八八鈴木英頼▲スワロー同上▲ポートレート京城南大門通二ノ三三米井章祐▲靜寂京城南大門通二ノ三三モリノブオサム▲語らひ同上▲プロフィール同上▲初秋京城芳山町九三古林清方▲橋上同上▲秋京城旭町一ノ七二島田常雄▲あらひぐま京城昌成町六六都築肇▲朝の井戸端鷺梁津地質調査所武上統▲河岸同上▲タソガレ朝鮮寫眞會田中盛雄▲入る太陽同上▲童心の語ひ明治町二水原榮一▲靜物京城漢江通十一大沼幸壽▲靜物同上▲陽ざし同上▲網大邱南町一四一徐丙直▲微笑同上▲牡丹大邱東門町古賀義徳▲影安東縣五番通二丁目近藤素行

選外佳作

▲漁船京專光畫會黒住一徳▲豊なる秋京城本町二ノ二二古瀬繁▲水の音木浦京町内谷和靖▲生活の一駒 [ママ、一駒カ] 京城東四軒町四八ノ二成田誠▲雪朝鮮寫眞會岸如水▲静物同上▲無題木浦光畫聯盟西尾儀太郎▲斜陽江陵寫友會坂井丑雄▲出帆用意鎮南浦三和町二一内藤豊▲濱の印象同上▲斜影平壤鐵道寫眞同好會原田穰▲秋京城北米倉町一〇八清成隆郎 ▲秋日の出小學校鈴木三枝▲無題貞洞シンガーミシン會社洪鍾五▲秋雲鐵道寫眞同好會三好熊次郎▲夏の空京城西四軒町五六吉田流泉▲ランプ京城東四軒三八小林修一▲静定州新光會中路佐治雄▲棒高跳京城寛勲町一九七ノ一〇朴有緒▲秋大邱アマチュア寫友會張炳眞▲風京城大島町六ノ一林金之助▲舢先京城青葉町二ノ九兒玉長夫▲あめんぼう京城南米倉町一九〇羽泉清一郎▲流線美漢江通一三松浪忠藏▲雪日の電車同上▲水映京城大島町五鯨岡昇▲秋のひざし同上▲小川のほとり京專光畫會長谷川熙▲榮冠我にあり同上▲たそがれ京專光畫會相馬一夫▲稔り同上▲秋の名残り同上▲秋同上▲池邊同上▲秋の訪れ羅南寫友會石原千佳裕▲農夫同上會田徳太郎▲静寂殖銀行友會寫眞部江頭正樹▲橋の感覺同上▲つらゝ平壤進光クラブ上木龍三▲冬の名残り仁川山手町梶谷靜風▲金剛山同上▲月尾島同上▲粉雪あげて仁川觀測所内岩崎三雄▲或日の崩小屋京城青葉町三ノ一〇八三橋康成▲建築京城南大門通二ノ三三モリノブオサム▲男の像同上▲語らひ京城授恩町六八朴弼浩▲城壁巡り京城旭町一ノ七二島田常雄▲藤同上▲秋の夜京城竹添町二ノ七八持田啓治▲なぎさ京城漢江通十一大沼幸壽▲歸路大邱内唐町一〇三五鄭雲相▲カーテン大邱七星町五七七野坂順三▲金魚屋の一隅大邱南町一四一徐丙直▲船頭を待つ大邱京町一ノ一〇二崔季福▲乾魚同上▲シャボン玉大邱上町吉武實▲晩秋大邱大和町中島甲馬太▲瓮の有る風景同上▲雨情大邱南龍岡町九埋金磨

◆推薦二點◆特選五點◆入選一〇〇點◆計一〇七點◆選外佳作六〇點

審査員 山澤三造、坪川英士、河野佐市

朝鮮寫眞サロン

十九日より廿三日迄 (五日間)

会場—三越ギャラリー

1937年 11月 17日 석간 4면

二十日授賞式
多數御出席下さい

入賞者並に入選者への賞品賞状授與式は二十日午後一時（土曜）二時より京城日報社貴賓室に於て行ひます、入賞、入選の方々はお差し繰りの上御來會下さるやうお願い致します、なほ遠方その他の理由で來會不能の方はその旨ハカキでお返事下されば當方より後日送ります

1937年 11月 17日 석간 4면

審査雜感
山澤三造

發表日が遅れた爲例年に比べその數に於てもその質に於ても期待はしなかつた。それにも拘らず豫想以上の應募數に上り、而も作品は皆それぞれ異つた味を持つ優秀品が揃つてゐるので文字通りの嚴選であつた。斯うした收穫は全半島寫眞界の躍進振りを物語るものである。

◇

斯く多數の力作を落すに忍びず選外佳作として六十點を加へ百六十七點が嚴選された、もっと採りたいものが多かつたが陳列會場が許さないので不幸選に洩れたものもある事を御斷りする

◇

一般に小型カメラ愛用は風景寫眞から人物寫眞へと轉換しつゝあることが窺はれ、人物寫眞によるものが多かつた。これは一面小型カメラの性能を活す所以であるとも見られ風景撮影はその視野に或る制限が加へられよいものが少ない私は曾てカメラの性能を認識しその良き機能の方面に主題を選び狙ふことが寫眞家の進む可き正しき道であることを述べたが、しかし今一段と研究されて主題を凡ゆる方面に求めて欲しい。寫眞藝術の世界がもっと廣い範圍に秘められてゐる事を忘れてはならぬ

◇

兎角構圖が整ってゐて、仕上げの綺麗、唯それだけで内容の足りないものも少なくなかった。これらの一部作者はもっと自然に親しみ總ての藝術に亘ってひろく見、ひろく聞き、ひろく讀み、そして高き審美眼を味ふことが肝要である。單なる器用で出來上った繪はすぐ飽きが來る

選ばれた推薦一席收穫は稍氣品を缺く恨みがないではないが落着のあるしかも郷土色を濃厚に表はした上乘の作である。仕上げも實に見事なものだ



推薦二席翁草は仕上げ多少の不足はあるが大膽な曲線二本に依って畫面全體を氣持よく引締め、その意圖が隅々から窺はれ作者の頭腦の鋭さを物語る異色を持つ優秀作である



特選五席風船は無心な子供の表情といひ、淡い光に依る風船玉の描寫法といひ、實に見事な出來榮えではあるが下部の右手が玉に疵である。ない方がよい惜しくてならぬ、他はそれぞれ優秀なものが多く順位をきめるのに非常に苦心をした

1937年 11月 23日 석간 4면

朝鮮寫眞サロン

あす二十三日が最終日です

會場—三越ギャラリー

主催 全朝鮮寫眞聯盟—後援 京城日報社

1937年 11月 25日 석간 4면

朝鮮寫眞サロン推薦 "收穫" 羅南寫友會 岡田光行

1937 年 11 月 27 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン推薦 " 翁草 " 京城 高田知一郎

1937 年 11 月 30 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン特選 " 見えたかい " 水原 澁谷佐市

特選第一席

澁谷佐市氏

今回全朝鮮サロン印畫寫眞特選第一席を勝ち得た澁谷佐市氏（三四）は總督府農事試驗場蠶糸部に技手として十四年間も引續き勤務せる勤勉家で家庭は節野夫人との間に二男一女あり節野夫人は水原公立普通學校訓導として兒童の教育に従事氏は騎兵少尉で趣味は寫眞の外弓術、庭球、ピンポン等多種でその内ピンポンはなかなかの達人寫眞は何よりの樂みで職の餘暇既に十數年も映寫今は既に素人の境を脱し各種の展覽會に何時も優秀で當選してゐる

光線の必要以上に強い眞夏でしたので一つの双眼鏡を中心に大空に求めて居る眞の様が如何にも好ましかったのでこんな處と申うてシャッターを切ったのでした、子供等には成可く氣付かれない様、眼、指、心の三者一體となった自然な處をキャッチしたいとそれには苦心しました寫眞的には種々缺けた處が澤山あったと思ひますが幸ひそれが入選しましたことは誠に恥しい次第であります

1937 年 12 月 2 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン特選 " 母と子 " 京城 モリノブオサム

特選第二席

モリノブ氏

営業家の私は市場のポートレートにあきあきしてゐる、青空をバックにし自然光の下で自由に撮りたいと日頃思つてゐる處にモデルがあつたので YMCA まで出掛けて四五枚寫したそれまでは唯娘さんとばかり思つてゐたのでそのつもりで寫した、が小さい妹さんらしいのと一緒にゐたので一緒に寫した其時はじめて母らしい感じを受け母と子、子をあやすその瞬間此處だな思ひシャッターを切つた二枚寫した内 YMCA の特殊な建物の像の面白さを取入れたが多少強すぎるので遠近觀 [ママ、遠近感カ] にとぼしく何うかと思つたが仕上げで見た唯何んとなく物足りない熱を持って大いに研究したいと思つてゐる

1937 年 12 月 3 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン特選 " 靜寂 " 京畿道廳地方課 高平破魔男

特選第三席

高平破魔男氏

京畿道地方課高平破魔男氏は語る

うらがれた蓮池を通じ冬の感覺と感情を表現しようとしたもので構圖に付て相當苦心しました外別に申上げることはありません皆様の御指導に依り今後はもっと力のあるものを物したいと念願してゐます
尙氏は十六ミリの半島の權威者である

1937 年 12 月 7 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン特選 " 物語 " 木浦 篠原勝利

特選第四席

篠原勝利氏

『物語』は私のモデル撮影の處女作であります、それだから勿論自信あって今回出品した譯ではありませんが只だ畫面から醸し出されてゐる若い女性■の美態に漂つてゐる物語的■味が撮影時瞬間の現實的氣分を如實に表出してゐる點で自分ながら獨りよがりの愚作の一つと定めてゐました

今度の破格の榮譽については全く日頃指導に與つて戴いた今は應召中の藤井雅男氏の御蔭だと感謝してゐる次第ですこの吉報を不取敢カ [ママ、不取敢カ] 通知して喜びを分つことにしませう

尙同會員内谷氏も吾々の先輩であります同氏の特選は我が光畫會をして愈々全鮮的に光輝あらしめたもので御同慶の至りであります

1937 年 12 月 9 日 석간 4 면

朝鮮寫眞サロン特選 "風船" 木浦 内谷和靖

特選第五席

内谷和靖 [ママ、和靖カ] 氏

サロン印畫募集發表後今年こそと期待しながら當地は連日の降雨で全くクサリ切つて居りました、締 [空白] られ夜間近所のお嬢様にお願ひしてローライで二三枚撮つた中の一枚でした、無邪氣な子供を撮る事は私の最も好む所なのですが日中の晴天なれば今少し撮方もあつたものと存じますが残念です然し待望の特選で何よりも喜んで居ります

1938 年

[참고 기사] 1938 年 4 月 29 日 석간 4 면

轉換期の寫眞界【上】

百年前の發明當時と現在

山澤三造

赤色は黒く寫るもの、紫色は白く寫るもの、だから餘り紫がかった色合の着物は成るべく避けなければならないと昔の婦人方は寫眞を寫す場合の心掛けを右の如く考へて居た。この事柄が根強く婦人達の頭に刻み込まれ未だにかく信じて居られる人が案外多いのに驚かされた。現に京城に於ける一流と稱せられる美粧院の某婦人が、いつぞや堂々と新聞紙上で『婦人の寫眞の寫された方』と題してよく寫して貰ふにはこれこれのことに注意せねばならぬと前に述べたやうな事柄をその一條件とせられたことを記憶してゐる。が然し、必ずしも某婦人に限らず、昨今の營業寫眞家の中でも今尙さうした誤りを思込んで居るむきがないとも限らない

兎角習慣といふものは一朝一夕に改まるものではなく可なりの時日を要すると共に當事者の可成りの努力も亦必要である。

申すまでもなく、最近の寫眞界にはさうした秘訣も最早や昔の夢物語りで、寧ろ赤色が黒く寫ること自體が不思議がられてゐる。少なくとも私共の眼に映ずるがまゝの色彩感をそのまゝ白、黒の明暗によって描き表はし得ることが當然とされてゐるのである。例へば着物についていへば、いろいろの色合や圖案によって美しく織込まれてゐる裾模様を細部にいたるまで綺麗に美しく寫し収めねばならぬ。赤色が黒く寫って美しい花模様が地色の黒色と一緒になったり紫色が白くなって白地と見境がつかぬやうでは、折角の記念寫眞も臺無しである。昔はかうした寫眞の不便な性質に随分悩まされ、出來さうで出來ない寫眞界の謎とされてゐたものだが、今日ではすべて解消されたのである。昨日よりも今日、今日よりも明日の寫眞術は遙に進歩的であり優秀なものであることを認めて貰ひたい。

時代の波は刻々と動きつゝ躍進の一途を辿ってゐるやうに、寫眞界に於ても亦然りで佛人ダゲール氏に依って發明されてから既に滿百〇一年を経て今日に至ってゐる昨年は恰も百年に當つたので、世界各國でそれぞれ記念の催しがあつて、始祖ダゲールに新たなる感謝を捧げたのである。我半島も京城日報社の主催で寫眞百年記念カメラまつりが花々しく開催された事は未だ讀者の記憶に残ってゐることであらう。

百年前の寫眞といへば、撮影に約八時間の露出を要した程凡てが幼稚であったものが、今日では千分の一秒といふ速さで足りるのである。かゝる長足の進歩をなせる寫眞界の跡を顧みる時、化學界のそれとよく似通つてゐることに氣付くのである。例へば製鍊についていふならば太古の幼稚な所謂鍊金術時代から今日の偉大な高周波製鍊時代迄に進化しつゝある。化學界に於て定比例の定律發見時代から週期律の發見に至る約七十年であるが、この週期律の發見は確に劃時代的研究であつて、化學發達史の新段階といつてよい。寫眞も亦この時代に生れ、その化學を基礎として發達し、しかも同じやうな經路を辿つてゐるものゝやうである。即ち幼稚な蒸氣現像から酸性現像へ、酸性現像からアルカリ現像へ、或は濕板から乾板、フィルムへと、ゼラチン乳劑の發見により劃時代的な進歩を見せてゐる

特に目立つのは約七十年前のルッセル氏に依るアルカリ現像液の發明は正に寫眞界に於ける大革命であつて今日の現像法は凡てこの發明の流れであるといつてよからう。而して化學發達史に於ける約七十年は轉換期を劃したと同様に寫眞界に於ても新紀元を劃したものであるそれは單に寫眞技術方面ばかりでなく寫眞を藝術品として取扱ふことに於てもさうである。

[참고 기사] 1938 년 4 월 30 일 석간 6 면

轉換期の寫眞界【下】
非常時局と轉換の絶好機會
山澤三造

寫眞機は見方によっては非常に窮屈さうに見えるかも知れぬが常に用ひて居る私共にとつては少しも窮屈とは感じない。寧ろ畫家の用ひて居る毛筆よりは遙かに便利なこともある。

隨分古いことではあるが讀賣新聞で『寫實の意義を論ず』と題する戸張弧雁氏の文章の中に『寫實とは冷たきレンズのやうな眼を以つて物體の輪廓のみを見る只それだけのものを指すのであらうか。吾人の眼には冷たき形體のみ映じてそれ以外は何ものも映らないものと信ずることが出来るであらうか。寫眞のレンズの如く制限することは自己の抹殺である』と述べられた。古いことであるから或ひは以前の寫眞はそれほど窮屈なものであつたかも知れないが、最近の寫眞を語るには當らない。木村莊八氏は中央公論で『自分は畫かきだが、畫に依つては出世しない【*ママ、出せないカ】字に依らずには出せない寫生の材料を感ずることがある。その都度自分は畫をかくと同じ創作の態度なり心持によって、之等の小品文を書いた。兎に角自分の見たものが自分を動かして書かせたのである』云々。寫眞の場合でも同

じことがいへる。繪筆で書き表はせない世界を、寫眞家のみが許された天恵美を感じることがある。要するに捉へべきものを捉へて居ればよいので、それは寫眞機から來るものでなく、人間から來るものでなければならぬ。生きたものを見つめた眼で、その眞を寫すものであって、冷たきレンズが寫して呉れるのではない。ロダンの言葉に『私はそれを描かずにそのまゝで見てゐる。すると私の精神は満足し、其の印象に慣れて來る。頭の中で私は未だに此のモデルの素描をやつてゐる』云々。寫眞家としても味ふべき名言であると思ふ

作品のもつ光の効果、白、黒の明暗の面白さ、單なるそれらの形體のみで満足すべきであらうか。曾つて私はこの紙上でも述べたことであるが、自然の眞を寫すことは自然の神（たましい）を感じることがある。即物主義とか、純粹寫眞主義とか、いろいろの表現方法の研究も最早一段落ついた形なので、今日の寫眞界は正に轉換期に直面してゐるものと見てよい。それは表現内容に於てばかりでなく、その技術的方面に於ても同じことである。

一大革命を惹起した猛烈な還元力をもつアルカリ現像法も既に約七十年にして、中性に近い亞硫酸ソーダを主成分とする微粒子現像法にまで變化を見せたが、これは内容表現より押し迫る技巧の動きではなくて、小型カメラ流行の單なる副産物と見てよからう。

もっと突進んで内容表現から生れる新しい現像法に轉化さる可きではあるまいか。そしてそれは更に強アルカリ現像法であるか、或ひは逆轉して昔の酸性現像法の改良されたものであるかが興味ある問題とされてゐる。

世を擧げて非常時克服に全力を注いでゐる。そしてカメラ界はあらゆる點に於て文字通り超非常時に際會してゐる。例へば高級、中級、何れにせよ、外國製品は今は今後當分輸入不可能の状態で、材料に於てもほゞ同様なことがいへる。然しよい寫眞を作り上げることは前にも述べた通り機械の優劣ではない。寧ろこの際外國品より國産品へと轉換するの好時期である。更に一步進んで表現内容については、今までのやうに徒なる歐米追従を排して日本固有の内容表現にまで轉換すべきではあるまいか。環境を抜きにした生活は變態的であり、生活を離れた作品は死物である。藝術並に寫眞本來の使命を考へるならば、非常時に立つ寫眞界こそ、寧ろ恵まれてゐるといはねばならぬ。この際私共は眞の寫眞のもつ意義を認識して、寫眞作家總動員による寫眞界の正しき方面へ轉換すべきであると信ずる。

1938年 10月 7日 석간 2면

1938年 10월 30일 조간 3면

☆全朝鮮寫眞聯盟主催
第五回サロン印畫募集☆

全朝鮮寫眞聯盟創立されて五周年、回を重ねる毎に技術に於いて一段の進展を見せ、會員數も一千五百名を突破しました。

茲に國を擧げての聖戰に際し第五回朝鮮寫眞サロンを迎へ、華々しく開催することになりました。時局柄戰時にふさはしい變った目新しい題材が生れ出づることとせう。會員各位は左記の規定により奮って應募され、聯盟の前途を益々光輝あらしめるやうご努力を願ひます

募集規程

【課題】 隨意

△出品印畫の大きさ ハッ切以上 △應募資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入、登録ずみの團體會員に限る 新たに加盟御希望の團體（五名以上を以て一團とし市内團體は加盟金年額金參圓、地方團體は金壹圓五拾錢とす）は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込下さい △使用材料 自由 △出品點數 制限なし △締切期日 昭和十三年十月三十一日午後六時迄聯盟事務所へ到着のこと △提出に関する注意 A 作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの B 台紙は隨意とす C 印畫の裏面には參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員番號（昭和十三年度の新番號を用ひること舊番號は無効）を記入し、住所氏名は一切書かぬこと D 印畫は一切返却せず △送り先 京城府太平通一丁目京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所宛 △審査員 京城日報紙上追而發表 △審査發表 京城日報十一月八日附朝刊 推薦（二名）李王職長官賞 壹名 學務局長賞 壹名 大型大理石美術置時計 壹箇宛 京城日報副賞及賞狀 特選（五名） 中型大理石美術置時計壹箇宛 京城日報副賞及賞狀 入選（一〇〇名） 陶器文鎮及賞狀 △展覽會 十一月十日より十四日まで五日間京城三越五階ギャラリーに於て開催

サロン印畫展
入選者発表、十日展観

軍國の秋に贈る好箇の展観として全鮮のカメラファン待望の裡に十日から十四日まで京城三越四階ホールで開催される全朝鮮寫眞聯盟主催の第五回サロン印畫展は、少くも寫眞に關心を持つほどの人なら何人と雖もこれへ入選することによって一定の水準をぬいたと云ふ誇りを感じさせる所の半島最高寫眞展覽會であるが、入選を目ざして集まった秀作佳品八百卅二點のうちから、聯盟では山澤三造、坪川英士、河野佐市、森川新一の四氏を審査員として六日第一高女講堂で厳正な審査の結果、百七點の優秀作品を入選作として決定したなほ、これ等百七點の入選作のうちから推薦二點、特選五點が更に選ばれ九日發表されることゝなつた、今回入選の諸作には創立以來五年の歩みが夫々の作品に滲み出てをり、視角、技術何れの方向から見ても會員達の深い研鑽の跡が現れてゐる立派な作品揃ひで審査員の眼を驚かせたが、十日からの華々しい展観は早くも各方面の話題を獨占してゐる、入選者左の通り

▲小春日和遊佐正美▲今日の喜び同▲稚魚旭忠雄▲奔流五島義夫▲雨後高平破魔男▲甕同▲晚秋朴三植▲秋の空張炳眞▲秋の光同▲風船をつく子供吉武實▲春なほ淺し同▲霧の朝モリノブオサム▲夕陽に輝く同▲窓村井房勝▲男のプロフェキル吳炳道▲白波新田榮次郎▲夏岡井隆永▲陽陰岡本忠夫▲春日中島強▲郊外風景永田一畝▲垣根の上同▲トンボ同▲夏永田一畝▲池畔同▲菜を洗ふ人同▲支那そうめん同▲炊事場瞥見同▲土くるま同▲靜かなる河邊長谷川熙▲夕暮生野實▲弱光長野喬一▲カンナ山田主夫▲落陽阿部寅己▲出來秋富永國太▲舎營の夜島田憲次郎▲朝の店頭白澤八郎▲軍國の少年同▲秋の陽ざし同▲黄昏保坂國平▲春の海西尾儀太郎▲松籟内谷和靖▲秋晴れ同▲少女同▲鈴蘭黒住一徳▲農穰の秋同▲採石場所見相馬一夫▲ちづちゃん篠原勝利▲秋日同▲待機同▲山の朝高橋誠一▲奔流同▲稔町田久吾▲晚秋の農家埋金磨▲閑日同▲垣間見る風景同▲光と影古賀義徳▲渡船場にて崔季福▲晚秋の農家同▲村家の一陽小田桐計人▲好々爺同▲晚秋の朝崔季福▲黎明を衝いて齋藤晴次▲秋陽を浴びて木瀬虎男▲二つの土管金舜泳▲山寺所見清成隆朗▲夏の陽同▲池畔同▲靜か島田常雄▲初夏同▲靜かな朝林博保▲つる 稻岡吉一▲幽谷の流れ花圃美地雄▲午睡同▲朝顔中務録一▲夕映鈴木二三一九▲夏福島柳也▲銃後の赤誠中根秀▲秋たけなは同▲夕映加谷宏二▲風を受けて長石俊男▲水車前田勳▲自像荒谷又次郎▲秋の陽ざし鯨岡昇▲麥刈る頃澤田正直▲夕暮三橋康成▲夕陽の讃歌田中さだし▲晨光同▲炎天梶谷靜風▲ひまわり草同▲仔猫谷瀬幸次郎▲勝って來るぞと勇しく上水龍三▲非常時同▲無題高田知一

郎▲無題同▲男趙永一▲作業大島萬之助▲鎔接新生信一▲光る芒金炳洙▲砂丘を行く
同▲田園李亨祿▲母と子林應植▲生氣と春物澁谷佐市▲日の丸辨當同▲露水同▲作業
場風景岡田光行▲リング今井民藏▲群燕同▲入選計一〇七點

1938 年 11 月 10 日 週間 3 日

全鮮寫眞聯盟主催 第五回寫眞サロン

榮冠輝く推薦、特選

◇=十日から五日間三越ギャラリーで=◇

いよいよ待望の作品展観

全鮮カメラ・ファンのオリムピックとして最高の權威をもつ全朝鮮寫眞聯盟主催のサロンも回を重ねること五回本年度のサロン展覧會出品は實に八百卅二點に上り入選作品百七點は既報の如く決定發表されたが、これらの秀作のうちから選ばれる榮譽の推薦二點、特選五點は、山澤三造、坪川英士、河野佐市、森川新一の四審員によって慎重に選ばれた結果、左の如く決定、戦時下、藝術の秋に匂ふ珠玉として、十日から十四日まで五日間、京城三越五ギヤラリーにおいて展覧されることゝなった

推薦

- 【第一席】 "銃後の赤誠" 朝鮮寫眞會 中根秀 【京城並木町二三九】
【第二席】 "少女" 木浦光畫研究會 内谷和靖

特選

- ◇第一席 "夕映" 朝鮮寫眞會 加谷宏二 【京城大和町二ノ一八】
◇第二席 "今日の喜び" 京土寫友會 遊佐正美 【京城貞洞土木出張所】
◇第三席 "夏" 京城寫眞研究會 永田一畝 【總督府文書課】
◇第四席 "夕陽に輝く" 新興寫眞研究會 モリノブ・オサム 【京城本一寫眞館】
◇第五席 "池畔" 京城寫眞研究會 清成隆郎 【京城長谷川町坂本洋服店】

1938年 11月 10日 週間 3頁

推薦第一席 「銃後の赤誠」 朝鮮寫眞會 中根秀作

1938年 11月 10日 週間 3頁

寫眞藝術も生活の延長

審査總評 山澤三造

生活を離れた作品は死物である藝術は我々生活の延長である。今や國を擧げて非常時克服に全力を注いでゐる。非常時局の表現は單に第一線にある皇軍の雄々しき勇姿、或はそれに直接關連したもののみの寫眞ではあり得ない。農業から工業朝鮮の建設へ、それは大陸經營の兵站基地たる重責の上からも朝鮮のもつ重大使命であることを認識せねばならぬ

かゝる東亞の重大時局に直面し第五回朝鮮寫眞サロンが迎へられ更に加ふるに寫眞材料の超非常時にも拘らず八百三十點の多數應募を見たことはなんととっても大成功であつたと思ふ。勿論題を課してはなかつたが、かゝる非常時日本の偉容を正しく把握して鋭い感覺による作品を望んでゐた。これが眞實の藝術品作成の所以であり寫眞本來の使命でもあるからである。眞に迫力のもつ藝術品は寫眞機から來るものではなく、人間から來るものである。それにはよく自然に親しみ、生きたものを見つめた眼で、その眞を寫したものであつて、冷たいレンズが寫してくれたものではいけない。かゝる見地から、もっとも戦時色の濃厚に滲み出したものを期待してゐたが、折角さうした内容をもつものが、技巧が伴はず落ちたことを惜しむ

總體的にいへば粒が揃つてゐて審査に非常に悩まされた。殊に技巧の點については素晴らしい進歩を見せ、申分のよい優秀作が多かつた。只こゝに注意を促したいことは、短焦點による小型カメラの缺陷と、フィルターの濫用により雲を取入れた風景物は綜じて深みを缺いた憾がある

選ばれた推薦一席中根氏作は非常時局に相應しい銃後の赤誠の表はれである。集合人物のめいめいによくさうした表情が窺はれ、總體的によく纏つてゐて、仕上げも實に見事である。近來にない上乘の作といへよう。常にいふことであるが單なる器用で仕上げた作品に綺麗だといふだけで内容に深みがない。すぐ飽きが來る。幸に推薦特選、入選の作品はそれぞれ狙ふところがしっかりしてゐてだんだんと押迫る魅力に引入られるよい作である

いづれ公開の際は十分に観賞していただき度い。

1938年 11月 10日 조건 3면

喜びを語る

赤誠ぶりにひかれて……

中根秀氏談

はからずも推薦一席の光榮に浴したゞ感激あるのみです、せめて百名中に入選出来ればと期待してゐました、寫眞を始めてから足掛け四年、まる三年になりますが忙しい勤めなので、十分研究の暇がなく、月々の例會に一、二枚位出品してゐる程度です、あの寫眞は今年の夏、會社が根けて歸宅の途中街角で出會いました场景です、幸ひに持ってゐた。カメラを素早く用意しました、銃後の女性が千人針を作る、眞剣な赤誠振りにひきつけられ、慎重にシャッターを切りました、寫眞としてのテクニックの點では相當難もありさうですがたゞあの時の氣分だけは十分寫し收めることが出来たと思てゐます、之れも一重に朝鮮寫眞會の先輩諸兄の日頃熱心なる御指導の賜と感謝に耐へません【寫眞=中根秀氏】

銃後の少女の健康明朗さを

内谷和靖氏談

聖戰第二年の秋を迎えて、意義深い貴サロン御開催に際し、何か時局にふさわしい題材をと考へましたが種々制限を受け十分の表現も出来得ないと存じまして舊作を選んで応募しました、この『少女』はこの夏近所のお嬢様にお願ひして近くの高台で撮ったものです、別に作畫上の苦心はありませんが、たゞ銃後少女の健康明朗な氣分を盛りたいとバックと表情に相當苦心を拂ひました、仕上げて見て自信はありましたが推薦には全く意外でした、早速公用中の藤井氏に通知しました、時局柄寫眞などと考へてはをりますがまた一方かゝる時局なればこそ健全な趣味が必要なのだと思へ直しすべてをつつましく趣味としての埒を越えない程度に行きたいと存じております

特選一席とは！

加谷宏二氏談

加谷氏は不在で夫人市子（三五）さんが代って語る

あれは本年の十月上旬午後四時ごろ漢江の上流でカメラにをさめたものと主人が話してをりました、入選とは思ってをりませんでした、その寫眞が特選一席とは主人もさぞよろこぶことゝ思はれます【寫眞＝加谷氏】

美しい雲に魅せられて

永田一畝氏談

初め美しい雲に魅せられ、簾を見付けて、圖案風にとって見たが、纏らなかったのものでその一部をカットしました、そして一本の竹の柱を生かし簾の黒と欄干の白を對象【ママ、對照カ】させ、その間を雲で連結させましたので、出来上ったものは最初の狙ひとは全然違ったものになりました私の使用したフィルムはライカ版でしたそれをカットしたのですから引き伸すのに一寸ばかり苦心しました【寫眞＝永田一畝氏】

全然自信のない作品

モリノブオサム氏談

全然自信のない作品でした、昨年に比べてズッと感覺も技術も落ちますので平入選だと諦めてゐました、雲が面白いと思って撮ったのですが雲と日の丸との距離感がサッパリ出なかったので悲觀してゐるところです【寫眞＝モリノブ・オサム氏】

もう一段冴えがほしかった

清成隆明【ママ、隆朗カ】氏談

特選でしたか、四枚出品した中『池畔』と『夏の陽』は入選すると思つてゐましたが、自分でも落着きのある作品だとは思つてゐましたが、もう一段冴えが欲しかったと感じます、寫

眞をいぢりだしてから三年半になりますがこれからもウンと勉強します【寫眞=清成隆明
[ママ、隆朗カ] 氏】

1938 年 11 月 11 日 週間 3 면

◇……第五回寫眞サロン當選作品……◇

推薦第二席 "少女" 木浦光畫硏會 内谷和靖作

1938 年 11 月 11 日 週間 7 면

サロン印畫展

きのふ第一日大賑ひ

半島カメラファン憧れの殿【空白】全朝鮮寫眞聯盟主催の第五回サロン印畫展は昨十日から京城三越五階ホールで蓋あけしたが推薦、特選以下百七點の傑作佳品は押し寄せる參觀者に大きな感銘を與へてゐる、創立以來五年を迎へた聯盟の功績は出陳の各作品に盛られた技術と視角の上にくっと著しい進歩の跡を見せて、さすがに半島カメラ界の最高殿堂の名にはおぬ好展觀として第一日から物凄い參觀者の渦を見せた【寫眞=その會場】

1938 年 11 月 12 日 週間 3 면

◇……第五回寫眞サロン當選作品……◇

特選第一席 "夕映" 朝鮮寫眞會 加谷宏二作

1938년 11월 13일 조간 3면

◇.....第五回寫眞サロン當選作品.....◇

特選第二席 "今日の喜び" 京土寫友會 遊佐正美作

1938년 11월 15일 조간 3면

◇.....第五回寫眞サロン當選作品.....◇

特選第三席 "夏" 京城寫眞研究會 永田一畝作

1938년 11월 16일 조간 3면

◇.....第五回寫眞サロン當選作品.....◇

特選第四席 "夕陽に輝く" 新興寫眞研究會 モリノブ・オサム作

1938년 11월 17일 조간 3면

◇.....第五回寫眞サロン當選作品.....◇

特選第五席 "池畔" 京城寫眞研究會 清成隆朗作

1939年

1939年 10月 3日 週間 3面

1939年 10月 4日 週間 3面

1939年 10月 13日 週間 3面

第六回朝鮮寫眞サロン

募集規程

◇課題 隨意

◇出品印畫の大きさ ハッ切以上

◇應募資格者 全朝鮮寫眞聯盟に加入、登録ずみの團體會員に限る 新たに加盟御希望の團體（昭和十四年度全朝鮮寫眞聯盟規約改正に依り會員十名以下年額會費參圓、十名以上金五圓、三十名以上金拾圓とす）は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込下さい

◇使用材料 自由

◇出品點數 制限なし

◇印畫締切 昭和十四年十月三十一日迄聯盟事務所へ到着を期すること

◇印畫提出に関する注意

- A、作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの
- B、台紙は隨意とす
- C、印畫の裏面には參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員番號（昭和十四年度の新番號を用ひること舊番號は無効）を記入し、住所氏名は一切書かぬこと
- D、應募印畫は一切返却せず

◇印畫送り先 京城府太平通一丁目京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所宛

◇審査員 山澤三造氏、藤井雅男氏、中根秀氏、森川新一氏

◇審査發表 京城日報十一月十四日附朝刊

◇賞品

- ▲推薦（二名）李王職長官賞壹名、學務局長賞壹名、銀七宝模様煙草セット壹組宛、京城日報副賞及賞狀
- ▲特選（五名）銀製煙草ケース壹箇宛、京城日報副賞及賞狀

▲入選（一〇〇名）入選賞及賞状

◇**展覧會** 十一月十五日より十九日まで五日間京城三越五階ギャラリーに於て開催、尙各地
主要都市に於て巡回展を開催

全朝鮮寫眞聯盟

1939 年 11 月 14 日 週間 3 日

輝く推薦二點

特選五點、入選實に百點

第六回寫眞サロン發表

全鮮カメラコンクールとして最高の權威をもつ全朝鮮寫眞聯盟主催のサロンも今年で第六回、本年度のサロン展覧會出品は八百六十五點で前回よりも卅四點の多數に上ったが、これにつき去る五日京城第一高女講堂で審査員山澤三造、藤井雅男、中根秀、森川新一四氏等の嚴重な審査の結果推薦二點、特選五點以下入選作品百點（中一點取消し一點棄權）を左の如く決定したなほ展覧會は來る十五日から十九日まで五日間京城三越五階ギャラリーで開かれる

推薦

【第一席】 斜陽 朝鮮寫眞會 杉山謙二

【第二席】 小女 [ママ、少女カ] 京城靜光會 澁谷佐市

特選

◇第一席、支那街の朝、鵲寫友會 鯨岡昇

◇第二席、白サギ、朝鮮寫眞會、古瀬繁

◇第三席、瓢箪、朝鮮寫眞會、生野實

◇第四席、朝陽、京城寫眞研究會 崔先童

◇第五席、朝、仁川光影會、河野琴舟

1939년 11월 14일 조간 3면

斜陽 推薦第一席 杉山謙二

斜光線に心を牽かれて

推薦第一席

朝鮮寫眞會 杉山謙二

杉山氏は目下出張中にて留守居の夫人に推薦第一席に入選されたと知らせるとアラさうで
すかとやゝびっくりした面持で

聯盟に應募したのは二回目ですが推薦第一席とは全く意外です、寫眞に興味を持
ってをりますが何しろ仕事が忙がしいもも【ママ、ものカ】ですから充分研究出來
ないと常々歎いてゐます、あの作品は今夏奉天へ出張中斜光線があまりにも美しい
のでそれに心ひかれてシャッターを切ったのだと云ってゐました、主人が歸って參
りましてこの事を知ったらどんなにか喜ぶ事でせう

と語った【寫眞=杉山謙二氏】

1939년 11월 14일 조간 3면

機械を使ひこなせ

審査總評 山澤三造

毎回のことだが粒が揃って、その上點數が激増しつゝある、それだけ審査に惱まされるこ
とだが實に悦ばしい

應募者も僅かで、作品も不揃で幼稚であった創立當初のことを顧みれば、今日では驚異的
飛躍振を見せてゐる、殊に昨今の材料入手の不自由と凡ゆるものゝ統制下にあつて開かれた
第六回展である、今その總評を試みると、最近頃に小型カメラ使用に驅られて來たことが目
立つ、それは仕上げが上手になり、その機械のもつ長所を生かして凡てに注意が拂はれて來
たやうだ、だがそれだけでは物足りない

寫壇といふ狭い範圍にこだわらず、もっと廣い世界に秘められてゐる美の探索に努められ
たい人間本來もつ深遠な理想の表にまでつき進めて欲しいものである、それには寫眞機とい

ふ機械に拘束されてゐては駄目だ、如何に科學的な優秀な寫眞機といへどもそれを用ひる人間の魂が支配權をもつものであることを想はねばならぬ

優秀な作品は單に人間の技能的優秀によって作られるものと考えてゐる間は優れた藝術品は望まれない、機械は單に型を作って呉れるものと思へばよい、そしてその作品に生命を盛るものは人間である正しき魂である、常にいふことだが着飾った婦人は如何に美しく見えても修養が足りなかつたら必ず見飽きがくる、即ち藝術價值はその内容力にある

畢竟優秀藝術品を作らんとせば先づ生活の精神強化を圖るにある、寫眞聯盟の組織された所以も亦そこにある、曾て本紙でも述べたことだが生活を離れた藝術作品は死物であり、藝術は日常生活の延長であることを想ふ、だから主題を凡ゆる方面に求め常に高き審美眼を味はふことが肝要である、展覧會のための作品であつてはならぬ、この際特に我々は藝術寫眞のもつ眞の意義を認識して、寫眞作家總動員による正しき方面へ精進していただきたいものである

選ぶに苦心！

審査員 中根秀

最近寫眞は、アマチュアとしての趣味範圍を脱し、商業並に宣傳用記録及び報告用、その他にも實用化され、正にカメラ全盛時代の感がある、申すまでもなく、寫眞は機械的、化學的に寫るもので、誰でも、はいり易い道であるが、さて或る程度寫るやうになってからが問題である、殊に寸暇を惜むアマチュアとしては、その簡単に傑作寫眞が出来るものではない

興亞の秋を飾る、第六回朝鮮サロンの審査に當りいさゝか所感の一端を述べて見たいと思ふ、現下の材料難にも拘らず、多數の出品があり、亦質に於ても實に粒揃ひで、これが選擇には終始悩まされた、特選以上はさておき、入選する事さへ、相當自信ある作家も、樂觀を許さぬ現況であると申上げておく、では如何なる作品が、榮冠を獲得したか、勿論技術の優れてゐる事は言ふまでもないが決極【ママ、結局カ】狙ひ所のしっかりしたもの、これが何よりも大切である、今迄に見馴れたものでは例へ入賞圏内に推されようとも、最後の一線を突破する事は、至難なりと言はざるを得ない、何事にも、不斷の研究努力が肝要である、選ばれたる百七點は、何れも美事な出來榮えで回を重ねる毎に水準が高められ、半島寫壇の最高峰をゆく、本聯盟の向上發展が窺はれ、眞に心強い限りである

推薦第一席『斜陽』杉山氏作は、題材を遠く躍進の滿都にもとめ、カメラアングルの技巧は、斜陽の描寫と相俟って、眞に光畫に非ざれば表現し得ざるものを鮮かにキャッチした、興亞色豊かな優作である、推薦第二席『少女』澁谷氏作は、健康にして明朗な少女の愛らしさ

を、實によく描かれた魅力ある傑作であった、なほ特選入選珠玉の個々については拙評を割愛するが、何れ展覽の際は十二分に鑑賞していたゞき、次回の勇奮を期されたいと思ふ

入選

▲水澄む西村義雄▲秋晴れ埋金春満▲けしの花中島甲馬太▲日なた平田巖▲屋外工場外一點徐丙直▲ボートレート外一點市根井照千代▲秋の田園張炳眞▲山谷の霧町田久吾▲歸路吉武實▲軒端惣門榮▲曉外一點沼喜久一▲稔る秋末永治作▲山を碎いて伊勢市雄▲路傍の秋古賀義徳▲朝の濱邊外二點徐丙直▲厨房の夕埋金春満▲かもめ中島甲馬太▲夕餉崔季福▲夏の雲張炳眞▲歸路張炳眞▲農耕横井勝造▲春の女外一點西尾儀太郎▲黄昏松本哲二▲釣上られた魚外五點生野實▲人見君外一點野村勇▲高原の朝松村忠三郎▲陽ざし進藤卓三▲秋の夜外二點金炳洙▲日ざし鄭富松▲收穫李亨録▲旅の印象玉井正雄▲鮎外一點篠原勝利▲笑顔外二點高橋誠一▲繪日傘外一點龜村重太▲あこがれ松本長一▲男外一點林茂▲夏の子供李謙洙▲金剛山外一點萩尾伸吉▲夏日中尾龍作▲ゆく人もどる人會田徳太郎▲ピクニック漫像林修▲秋日中島強▲夏車道舜▲高原の朝永次貫次▲出發前秋田寛治▲黄昏外二點保坂國平▲朝蹴高平破魔男▲驛の朝藤並章▲冬の本町鈴木三枝▲秋の感觸杉山謙二▲風車持てる子田中さだし▲鮮童古林清方▲朝小島三郎▲鳴く虫中務録一▲丁君の印象外一點張錫顯▲力伊藤莊治▲鳶に映ゆる外二點永田一畝▲秋風の吹く頃外三點澁谷佐市▲日の本外二點古瀬繁▲秋陽高橋百之▲朝の光外三點松浪忠藏▲朝濱井一郎▲銃後の子供小山喬▲夕陽加藤宏二▲小兒像岸章吾

1939 年 11 月 15 日 週間 3 冊

少女 推薦第二席 澁谷佐市

" 動的なものを狙ふ "

推薦第二席

京城靜光會 澁谷佐市

感想とて別にありませんが今回は殊更仕事が忙しかったので十分な準備も出来ませんでした、子供がカメラの方に嬉々として駆け込んで来た一メートル位の處でありましたでせう、チラリとピントグラスに映じた瞬間シャッターを切ったものであります、幾分でも動的感情

が表現されてをりましたら幸ひと思ひます、不圖もそれが過分の選に加へられましたことは
誠に意外でなりません

1939年 11월 15일 조간 3면

日時 十五日より十九日まで五日間

會場 三越六階ギャラリー

第六回朝鮮寫眞サロン印畫展

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1939年 11월 16일 석간 2면

サロン印畫展

けふから十九日まで

三越六階で開催

半島カメラ壇の最高峰を誇る本社の第六回全朝鮮寫眞聯盟サロン印畫展は、十五日三越六階ギャラリーで華やかな蓋を開けた、出品された百五點は應募總數八百廿餘點から嚴選された半島カメラ界最高水準を示すものだけに待ちかねて押寄せた觀衆は目を瞠って感嘆の連続である、ひきつゞき十九日まで開かれる【寫眞=サロン印畫展會場】

1939年 11월 16일 조간 3면

支那街の朝 特選第一席 鯨岡昇

興亞の活氣を

特選第一席

鵲寫友會 鯨岡昇

去る八月滿州を旅行して、興亞聖戰下に脈々として發展する友邦を祝て我が國の偉大さを特に強く感じました。拙作『支那街の朝』は錦縣城門の印象で、古びた城門に流れる朝の光、働きに出る人々の活氣に充ちた情景に心ひかれたのでした、良い素材ではありましたが……もっと感覺的な内容の表現方法があつたのではないかと思はれます

1939年 11월 17일 조간 3면 기사

白鷺 特選第二席 古瀬繁

”實に意外”

特選第二席

朝鮮寫眞會 古瀬繁

あの作品が特選に入ったとは全く意外です、私は元々健康のために寫眞を始めたのですが、段々興味を覺え昨年先輩の御指導や助言を受け本格的にやり出したのです、その後は研究的態度で種々苦心もしましたがどうも『コレハ』と云ふ程のものも出來ず寫眞のむづかしさをつくづく感じて居ましたが今夏入選しましたので、これに力を得て努力しました、今度特選になったものも充分とは言へませんが割合自分の考へに近いものが出來たのでせめて入選すればと思つて出したので特選などとは夢にも考へて居ませんでした、これでやゝ自信もつきましたから今後は尙一層研究し且先輩の御指導下に優秀なものを作りたいと考へて居ります 【寫眞=古瀬繁氏】

1939年 11월 18일 조간 3면

瓢箪 特選第三席 生野實

”美しさに魅されて”

特選第三席
朝鮮寫眞會 生野實

ハイキングが好きで日曜日にはよく郊外に出かけますあの作品も今年の夏寫友と共に早朝安養に出掛けプールに行く途中小さな瓢箪を見つけ朝陽に光るその美しさに魅せられ一枚撮ったのでした、それが特選第三席とは全く望外の至りです現像仕上は夏のことでもあり完全な暗室設備を持たない僕には可なり苦心させられました細心の注意と根氣とを以て製作したものです、今後も益々勉強して優秀作を出したいと考へてをります

1939年 11月 19日 조간 3면

朝陽 特選第四席 崔先童

" 努力のお蔭 "

特選第四席

京城寫眞研究會 崔先童

この度の作品はせめて入選でもすればと思つてゐましたが特選とは全く意外です、三年程前から寫眞を始めましたが第一回の應募は落選でした、その時はやゝ淋しい感じがしましたがこれではいけないと一生懸命勉強しました、御蔭で昨年と本年夏の二回入選のよろこびを得、今又重ねて特選の榮冠を獲得しました、これも皆先輩御指導の御蔭と思つてをります、今後は大いに研究してもっともっとよい作品を出したいと思つてをります 【寫眞=崔氏】

1939年 11月 20日 조간 3면

朝 特選第五席 河野琴舟

" 樂々と軽い氣持ちで... "

特選第五席

仁川光影會 河野琴舟

本年度サロンの最優位をめざして今秋寫友と金剛山撮影行をしましたところ生憎雨に封じられ雄圖むなしく破れサロン出品も一頓挫の時何も金剛山でなければならぬ理由はない、やれやれと寫友達が聲援するので自分もサロンを棄權するのは餘りにも不熱心だ、よしやらうと二三日續けて朝早く歩く中たまたま彼の場所へ行きあてたのです、特に申上げる程の苦心も何ありません樂々と軽い氣持ちで出品したのです平凡な作品が特選に擧げられお恥かしい次第です【寫眞＝河野琴舟氏】

1940年

1940年 10月 12日 週間 2面

第七回 朝鮮寫眞展覽會 作品募集規程

- ◇課題 隨意
- ◇出品印畫の大きさ ハツ切以上
- ◇應募資格 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録ずみの團體會員に限る、新たに加盟希望の團體（全朝鮮寫眞聯盟規約に依り會員十名以下年額會費參圓、十名以上金五圓、三十名以上金拾圓とす）は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込下さい
- ◇使用材料 自由
- ◇出品點數 制限なし
- ◇印畫締切 昭和十五年十一月五日迄聯盟事務所へ到着を期すること
- ◇印畫提出に關する注意
 - イ、作品は『展覽會』若くは公刊物に發表せざるもの
 - ロ、台紙は隨意とす
 - ハ、印畫の裏面に參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員番號（昭和十五年度の新番號を用ひる、こと舊番號は無効）を記入し、住所氏名は一切書かぬこと
 - ニ、應募印畫は一切返却せず
- ◇印畫送り先 京城太平通一丁目 京城日報社内 全朝鮮寫眞聯盟宛
- ◇審査員 山澤三造氏、澁谷佐市氏
生野實氏、河野琴舟氏、森川新一氏
- ◇審査發表 京城日報十一月十九日附朝刊
- ◇賞品
 - ◇推薦（二名）李王職長官賞壹名、學務局長賞壹名、推薦賞、京城日報社副賞及び賞狀
 - ◇特選（五名）特選賞、京城日報社副賞及び賞狀
 - ◇入選（一〇〇名）入選賞及び賞狀

- ◇**展覧會** 十一月二十日より二十四日まで五日間京城三越五階催場に於て開催、尙各地主要都市に於て巡回展を開催

全朝鮮寫眞盟聯 [ママ、聯盟カ]

1940 年 10 月 29 日 石間 2 頁

第七回 朝鮮寫眞展覽會

作品募集規程

- ◇**課題** 随意
- ◇**出品印畫の大きさ** ハツ切以上
- ◇**應募資格** 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録ずみの團體會員に限る、新たに加盟希望の團體（全朝鮮寫眞聯盟規約に依り會員十名以下年額會費參圓、十名以上金五圓、三十名以上金拾圓とす）は京城日報社内全朝鮮寫眞聯盟事務所へ御申込下さい
- ◇**使用材料** 自由
- ◇**出品點數** 制限なし
- ◇**印畫締切** 昭和十五年十一月五日迄聯盟事務所へ到着を期すること
- ◇**印畫提出に関する注意**
- イ、作品は『展覧會』若くは公刊物に發表せざるもの
 - ロ、台紙は随意とす
 - ハ、印畫の裏面に參加章を密着し、本聯盟から交附した各自の會員番號（昭和十五年度の新番號を用ひる、こと舊番號は無効）を記入し、住所氏名は一切書かぬこと
 - ニ、應募印畫は一切返却せず
- ◇**印畫送り先** 京城太平通一丁目 京城日報社内 全朝鮮寫眞聯盟宛
- ◇**審査員** 山澤三造氏、澁谷佐市氏 生野實氏、河野琴舟氏、森川新一氏
- ◇**審査發表** 京城日報十一月十九日附朝刊
- ◇**賞品**
- ◇**推薦**（二名）李王職長官賞壹名、學務局長賞壹名、推薦賞、京城日報社副賞及び賞狀

◇特選（五名）特選賞、京城日報社副賞及び賞状

◇入選（一〇〇名）入選賞及び賞状

◇**展覧會** 十一月二十日より二十四日まで五日間京城三越五階催場に於て開催、尙各地主要都市に於て巡回展を開催

全朝鮮寫眞聯盟

1940 年 11 月 17 日 조각 3 면

1940 年 11 月 18 日 조각 3 면

期日 · 十一月二十日より二十四日まで五日間

會場 · 三越五階催場

第七回朝鮮寫眞展覧會

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1940 年 11 月 19 日 조각 3 면

時局色濃し

應募實に七百十一點

第七回寫眞展入選發表

全朝鮮寫眞聯盟では全鮮のカメラ、ファンを動員して去る十月から本年度カメラ、コンクール出展の優秀作品を募集中であったが計七百十一點の作品があつまったので去る十日、山澤三造、澁谷佐市、生野實、河野琴舟、森川新一各審査員が會同嚴選の結果入選作を別項の如く決定した應募作品は時局色濃厚なもの多く、いづれも優秀なものであるが同聯盟では推薦二、特選五、入選百の各代表作品を出品して來る廿日から同廿四日まで京城三越五階ギャラリーに第七回寫眞展を開く

推薦

第一席 朝日あびて 朝鮮寫眞會 古瀨繁

第二席 朝の日課 京城寫眞研究會 高平破魔男

特選

第一席 紀元二千六百年 萩尾伸吉

第二席 登校 古林清方

第三席 朝霧の學園 鯨岡昇

第四席 田園の朝 波平龍雄

第五席 僕等 [ママ、僕達カ] の防空 鈴木三枝

入選

林政吉、安澤仁平次（二點）福井清美（三點）岡本眞（二點）道原正雄（二點）松浪忠藏、道原盛夫、梅本馨、伊藤龍、古永勝美、杉本長一（二點）堀江喜二雄（二點）宮川二郎、伊勢市藏、原武比古、島村克二 徳田三千穂、神崎正、中務録一 加藤愿策（二點）、久保虹城、松岡月歩、高島一郎、岡本伊之助 吉武實、宮川二郎、木瀬虎男、假家啓義、吳山銀作（四點）沼喜久一（二點）末永治作、波平龍雄（三點）五島義夫（二點）高平破魔男（二點）李謙洙、金周聖 金原英一、車道舜、榎本猛雄、古瀨繁（三點）鯨岡昇、古瀨繁 福田千代之助（二點）田中莊太郎、進藤卓三、伊藤恭一（二點）駒木根清彌（五點）下川徳三、福井清美、中島光之助、張錫顯、高山時彦、宇川榮一、玉山晴光、趙祥奎、浦野進、吉香保輔、金岡達男、古瀨幸次郎（二點）、濱井一郎、浦野進、梶谷靜風（二點）、高橋百之、石井武文（五點）豊原モモヨ、末廣秀雄（二點）岡本清次郎、李亨録（二點）

1940年 11월 19일 조간 3면

朝日を浴びて 推薦第一席 古瀨繁

”夢中で研究しました！”

推薦第一席

古瀨繁

今から二年半程前東郷カメラを使って寫眞を始めました、最初判らないまゝにやって居ましたが色々なことが判って來るに従ひ難かしくなつて來ました、然しやれば出來ない事はない、やるなら人に負けないものを作らうと公休日等を利用して夢中に研究しました、昨年特選を得ましたのでそれに自信をもち何か面白い方法でよいものは出來ないかと思ひ或時自分のメガネをレンズの上に當てゝ寫しましたところ案外面白く寫りましたので此度の『朝日をあびて』の寫眞も獨自分で研究したアタチメントを使用して寫しました、再度上位に推されました此機會に益々勉強努力しまして皆様の御期待に副ひたいと思つて居ります【寫眞=語る古瀬氏】

「狙ひ得た山の神秘」

推薦一席について

山澤三造

自然は人を育み、人を作るといはれてゐる、それに自然の背後に秘められた偉大な精神が嚴存してゐて常に躍動してゐるからである、山岳の描寫は單に外形的でなく精神的のものでなくてはならぬ、作者の意圖も亦この山の神秘を狙つたものと見える、然し添景人物に今少し工夫が欲しい、ともあれ吾人は自然を愛し、自然に親しみ、その靈感に觸れることだ、斯くしてこそ人にも陶冶されよい寫眞も出來る

1940年 11月 19日 週間 3頁

粒が揃つて來た

時局認識に缺けたものは駄目

審査總評 森川本社寫眞部長

時局下材料入手難の折柄昨年より相當數應募點數が減るであらうと思つてゐたが七百十一點の多數應募を見たことは主催者として欣快に堪へざるところである、而して作品の多數が時局に相應しいものであり今迄の如く自己滿足の内容貧弱なものが少なくなったことは數の上では減つたりと雖も時局下誠に慶ぶべきであると思ふ、作品は回を重ねるに従ひ着想、技工共に優秀になつて來た、即ち粒が揃つて來たのである、そのため審査は益々困難となり

決定には相当悩まされた審査は先づ時局に適した内容をもつもの、これは多少技工に難があっても入選、反対に如何程技工が優れてゐても時局認識の足らざるものは落選とする方針をとった、これは何時の場合でもそうであるが、特に今回は此處に重點をおいた、結果は發表の通りであるが明日から三越において開かれる展覧會で實地見られたいと思ふ、次に感じた點を二三申し上げる、着想、技工共に優れてゐるがトリミングの不充分、添景人物の扱方、表情等に無關心かと思はれるものが非常に多かつたことである、右又は左、上或は下を一寸切ればなほ一段とよくなるもの、餘り切り過ぎて窮屈なもの

人物にもう少し動きがあれば畫面全體が強くなるもの等が上位入選中にも見受けられるこの點今後一層の研究を望むものである、次はカメラの位置であるが近時レフを多く使用されるため仰角度のものが多、空に抜く事は非常に強い印象は與へるがものによっては却つてそのため全體的構圖をこわす決果【ママ、結果カ】になることがある、入選作中にもあと一尺も高く寫せばといふものが二三ある、レフを使はれる諸氏の一考を望む次第である、以上審査の概略を申述べたが、時は將に非常時局である、國家總力擧げてやるべき秋である、寫眞作家のみが舊套を墨守して晏如としてゐられないのである、よろしく新體制に順應し一枚の寫眞を作るにも直接間接に國家社會に役立つ内容堅實なものを作るやう心懸け、無駄な材料は紙一枚、フィルム一駒と雖も節約し眞に寫眞報國の實を擧げられるやう切に望むものである

1940 年 11 月 20 日 조건 3 면

愼しめ濫寫

審査總評 澁谷審査員

應募作品中不要なる紙面を多分に存して居る寫眞が多いこれは單なるトリミングの誤りといへばそれ迄であります、不要な畫面否却つて寫眞的價値を害して居る作品が

非常に多かつたことで、尤もこれは作意にも依ることと一概には申されませんが、それを知らない者の寫眞効果を無視した要領を得ないトリミングであるか、或は乾燥後適當にトリミングをする積りであつたものが乾して見れば切り捨てるのが惜しくなり、寧ろ畫面の廣い點を採つて貰ふと言つた二者に分けられると思ひます、前者はこの際問題外としても後者は餘程考へねばならぬと思ひます、これは要するにトリミングの研究の足らないことであり、不必要なものなれば最初よりその

計畫で引伸すべきで後か [ママ、からカ] 捨てると言ふ考へ方は徒らに不經濟を意味するのみならず出来上り後不要畫面切り捨ては何となしに惜みを惹起し作畫を誤る大きな原因となるのであります即ちトリミングの研究就中引伸時に於ける苦心の足らざる點でありまして此の際特に申述べたい一釘であります、第二には寫眞的視野の狭い事でありまして、極端に申せば又これもかと言った様な異名同種的なものが多々ありまして遺憾乍ら従來の型色脱し得ない事を痛感したのであります、茲に入選以上の優秀作を通覽するも其の感が深いものがあります、時節柄時局關係のものが多かった事は當然ながら其の角度取扱ひ方に新鮮味が缺けて居る事を見逃す事が出来ません、それは實際の場合種々議論のある處でもありますが、内容、表現角度に於て寫眞なしではの感深いものを作る言ひ替へれば寫眞の特色を

發揮する、これが我々寫眞を作るものゝ心構へであり、寫眞美術を生かして行く所以であると考へます、さうすれば勢ひ、被寫體も少くなり發表作も僅少となりますが其處に我々の努力、苦心の絶對必要なる理由が生ずるのであります、亂寫亂發必ずしも優秀作を産むとは限りません、否私の經驗からすれば却って駄作に終る場合が多い事を知るのでありまして、結局は精魂の問題であるを痛感致します、今回の作品を見るもいはゆる犬棒式のもので非常に多く同一作者とも覺しきものに大同小異同じ様なものが幾多もありました實際作者の心境を窺ひたい様な氣がします『これではどうか、ひょっとしたら』と言った、悪く言へば選者の誤漏た防ぐための様な感をうけるものが少くなかったのであります

1940 年 11 月 20 日 週間 3 頁

朝の日課 推薦第二席 高平破魔男

” 前から思つてゐた構圖 ”

推薦第二席

高平破魔男

私が朝鮮聯盟に應募しましたのは第四回が初めだと思つてゐます、その時は『靜寂』で特選の光榮を荷ひました

今回推薦 [ママ、推薦カ] に預つた『朝の日課』は久しい前から意圖してゐたものですが適當な人と場所を得ず延々になつてゐたものです、幸ひ議政府の農民道場に行った時機を得て場長の御家族に願ひて寫したものです、京城に通學せられるお嬢さんの時間の都合で

大分あはてゝ撮したもので意圖してゐるものに未だの感があり之は今後完成せらるべき次の朝の日課への一つの試作品である、推薦になつたことの喜びより今の私には私のかゝる作畫意圖が選者の方々から認めて頂いたといふことの喜びの方が大きい吾々寫眞人に課せられた今日の課題は最早や形態や表現の徒らなるテクニックの問題でなく、よりよき時代の理解とその反映であり換言すれば何等かの形に於て社會國家に寄與する作品—我々アマチュアの再出發と努力はそこにあると思ふのです

" 魅力に富んだ作品 "

『朝の日課』について

山澤審査員

眞の藝術は健全なる美の象徴であり、健康は健全なる美を生むものともいへる、すがすがしい朝陽を浴びて親子一緒に朝の日課ラジオ體操の一家こぞつての情景である

一見平凡な様であるが、魅力に富んだ作である、缺點は畫面一杯に變化なく人物を取入れたことである

1940 年 11 月 21 日 週間 3 冊

時局第一で行く

審査總評 生野實

審査は時局を認識し内容の優れたものを順次厳選した幸にして作家諸君の自覺と努力に依つて、時局に相應しい優秀作を多數見出すことの出來たのは、誠に喜ばしい次第である、推薦第一席より特選第五席に至る作品は、何れも大差のない優秀作であつた、多少の構圖に無理があり仕上や技巧に不定【ママ、不足カ】の點があるとしても其の内容を觀者は味って頂きたい、最も健康的な山の、朝明朗な氣分に満々たる朝の體操、莊嚴にして敬神の念を抱だかしめる朝鮮神宮の朝霧、兒童の教育に資するもの、防空訓練依る團員の活躍情況を如實に物語るもの等何れも見逃すことの出來ない秀ひでた時局的作品で

作者の苦心、眞剣な態度に敬服するものである、動もすれば寫眞を贅澤なあそびと見るものがあるが、甚だ遺憾である之は寫眞人の態度如何によるものであってフィルムの一齣、印畫の一枚にも作者の眞面目な態度が織込まれることによってみかたも自らは是正されるであらう眞の藝術作品は、あそびや浮付いた調子で出来るものではない眞剣に不斷の研究努力があつてこそ傑作も生れるものである、全般的に今回の作品は、技巧其の他多少劣ったかの感があつた寫眞材料の不良の故もあるが、トリミングや色調に今一段の考慮を拂はれたい、更にまた一層内容の充實に勉めるべきで單なる男女のポートレート、花

果實等の靜物其他の古いもので秀作が多數あつたが大部分は落選してゐる、今後の寫眞作家は被寫體として何を選ぶべきか、再考を要する次第である

1940年 11月 21日 週間 3面

紀元二千六百年 特選一席 萩尾伸吉

「時局を狙った」

特選第一席

萩尾伸吉

毎年聯盟の展覽會には出品してをりますが今迄三回入選しましたゞけで特選に入ったのは今回が始めてゞあります、今年も募集の發表があつてから何か出品しようと思ひフト思付いたのが毎朝出勤の途中通る朝鮮神宮の大前であります、朝早くから參詣する人々の敬虔な姿、南山の頂よりくる朝日を取入れて『紀元二千六百年』を表徴するやうなものをと考へて寫しました、もう一尺も高くカメラを置きたかったのですがレフのため下過ぎた感があります、仕上も充分ではありませんが何しろ多忙の體で思ふやう出来なくてはお恥しい次第です、然し常日頃から出来るだけ時局に相應しいものをと考へてをりましたがその點を審査員の方にとられ特選一席にをされ、この上もない喜びであります、今後も益々精進して寫眞報國の誠を致したいと願つてをります

「氣の利いた構圖」

特選第一席について

山澤審査員

この種のもは神苑の莊嚴な氣分を表はすことである、單に建物や鳥居を正確に描寫したのでは効果が薄い、この意味に於て朝陽をあしらって宮詣をする人々の敬神崇祖の念を表徴したことは氣が利いたやり方である、難をいへば中央にある鳥居の一部は餘りにも強く目障りになる

1940年 11月 22日 조각 3면

なくなった獨善

審査總評 河野琴舟

七百餘點の多數にも不拘ず從來見る如き不健康な獨善的軟弱風が影をひそめ新體制に相應しい畫調の多くなつた事は私共審査にあつた者の期待を可成満足さしてくれました、この様に内容的に一變して來た事は喜ばしき事ではありますが、舊殻を脱した新しい體制下最初のことゝて折角着想は好くともその扱ひになれぬため凡作に終つた作品の多かつたことは將來多くの研究練磨の餘地があります、題材は勝れた物を選びながらも智的觀察の鈍いもの他人の作風をそのまゝまねた様な作も見受けられました

着想を借りる事は好いが全く同じ様ではいけない、藝術は總べて我々日常生活の中からあふれたものでなければ他人を動かす程の迫力はないものと思ひます、新しい周是【ママ、主題カ】と理想に向つて全國民が邁進せんとする秋半島寫壇人が從來の傾向を一擲して新體制下に新しく發足しようと云ふ氣運が全會員の畫面に盛り上つて居る事は我寫壇の將來に大きな期待がかけられると思ひます、何時の場合もそうですが是れからは特に觀察の鋭さを以て國防上社會教【ママ、教化カ】上の事等十分考慮して製作には常に頭腦的閃めきを失なはぬ様有つて欲しいと思ひます

技術的方面にはそれ程の變化進展は見受けられないと思ひます材料不足、質の低下等にも起因する事ながら全部が同一色調に仕上げられて、個人展をいくつも見る様な感がしました、彼様に應募される人々が一步調に有ることは半面に半島寫壇は技術的に沈帶【ママ、沈滯カ】して居る様に思はれ、少し淋しく感じました、指定の寫法や既製の MQ を其のまゝ使用する丈でなく、それに少しの手

加減をして焼度ブロムカリの追加等に因って内容のより好き表現を研究する事は新體制下我々に與へられた試練であり亦義務であるとも云へませう、最近本紙の報ずる所に因りますと、半島に本部支所支部を持つ文化團體、社會事業團體を統合して總力聯盟の傘下に歸一せしめこれを通じて日本の理想を半島上下國民層に呼びかけ國民の自覺を普及宣傳せしめようと云ふことであります、此 Q [ママ] 後我々寫眞人は趣味として個人的な事に終始されず、大乘の見地より新體制に順應して切實に時局を認識し互に自肅自戒今後に對する本聯盟の活潑な運動の進展に期待して準備を忘れず専ら時代にそうした寫眞藝術に邁進されるやう望みます

1940 年 11 月 22 日 週間 3 頁

登校 特選第二席 古林清方

「 銃後第二國民を對象 」

特選第二席

古林清方

非常時局に際し今更寫眞などと一應は考へられますが長期戰時體制下にある我々銃後國民は健全なる趣味性の涵養によって健實なる心身も養はれるのであると信じます

寫壇も新體制に即應しあらゆる角度より再検討されつゝありますので銃後第二國民を對象として製作しようと日頃心懸けてゐました、或る朝氣の向くまゝに近所の師範附屬小學校へ出掛けた折の一枚が『登校』であります、測らずも特選におされお恥しき次第です、苦心といふ程でもありませんが、最後の仕上げに相當骨を折ったつもりであります、今後も新體制下の寫壇人としての務めを果さんと思ふ次第であります

「 學園の平和 」

特選第二席について

山澤審査員

よく整った、そつのない穏かな繪である、朝陽を浴びて登校する二人の子供のポーズは如何にも自然であり、朝の静けさが畫面に溢れてゐて気持ちがよい、まだ早いと見えて二人三人ぼつぼつ登校する學園の平和な情景であり象徴である

1940 年 11 月 23 日 週間 3 日

朝霧の學園 特選第三席 鯨岡昇

〃 二度目の特選 〃

特選第三席

鯨岡昇

第七回朝鮮寫眞展に拙作『朝霧の學園』が特選となりました事は自信の無い作だったのと又昨年に續いて二度目の特選だけに全く望外の喜です。

前から趣味を仕事の上に役立たせたいと思って學校の施設、行事、學童の生活等の記録を續けて居りますが、潑瀾と伸びゆく兒童の姿は詩であり、繪であり強き明日の力を思はせませず、又健全なる優れた寫眞の素材として心動くものがあります、拙作は元町小學校學童の生活記録で朝霧の霽れかけた校庭、和やかな朝光、毎朝仰ぎ見る二宮金次郎の銅像、それに兒童と思ったのです、然し思ふ様な氣分が出て居ないのが残念でした

〃 子供のよさを活寫 〃

特選三席について

山澤審査員

學園生活の一隅を狙って天真爛漫そのものゝ子供のよさが充分窺はれる、美は我々日常生活の何處にも存するもので唯作者の感受性の有無によって攷み得ると否の差こそあれ特別の存在ではない、常に美しい自然の心の體得に努むべきである、左隅の添景の取扱ひに今一度の工夫を望む

1940년 11월 23일 석간 7면

三越に第七回寫眞展

半島寫壇の最高をゆく本社内全朝鮮寫眞聯盟主催第七回寫眞展覽會は多數の應募作品中より百七點を嚴選、二十日より三越五階ギャラリーに開催されてゐるが■本年は特に時局色を強調した作品が多く、押寄せた觀衆に寫眞に■る時局認識を深めさせてゐる、展覽期は廿四日まで

1940년 11월 24일 조간 3면

田園の朝 特選第四席 波平龍雄

”心引かれた畫材”

特選第四席

波平龍雄

三度の飯を忘れてもカメラとは一時も離れなかったのです、しかし收まれたフィルムに一回も満足を得たことはありませんでしたが今回出品した”田園の朝”が特選になりまして全く夢のやうです、この喜びを何んと話してよいかわかりません”田園の朝”は或る霧の朝にカメラを持って家の前に出かけた時冷たい朝の寒さをさいて田園に働いてゐる農夫達に母が温い朝飯をやってゐる場面に何となく心引かれ自然とカメラを動かしたものであります、何分まだ斯道に淺學なので今後先輩の方々から指導を受けつつ努力致します、【寫眞=波平龍雄氏】

”躍る田園情緒”

特選四席について

山澤審査員

この繪を見て、ふと植田國境子さんの歌はれた『極樂の道はいつこと佛にとへば土に親しめ秋を喜べ』を想ひ出した、待ちわびし秋が來た、朝陽を浴びて若者の刈入を手傳ふ老婦の心遣りが畫面に溢れてゐて嬉しい、野邊に働き得る者は幸ひである、素朴な田園情景を何等飾りけなく表はした素直な作である

1940年 11月 25日 週間 3頁

僕達の防空 特選五席 鈴木三枝

「銃後小國民の眞劍さ」

特選第五席

鈴木三枝

私が初めてカメラを持ったのは約六年前頃からです、最初は子供の生長記録を撮ってをりましたが、やってをりますうちに段々面白くなり聯盟の展覽會にも數回入選しました、此度特選に入りました『僕達の防空』は我々アマチュアも今後は遊戯的なものでなく眞に銃後生活の一部面であるとの自覺の下に小國民の眞劍な生活の一場面を時代感を強調して寫したものです、今後ますます勉強して直接間接に國家社會に役立つ寫眞を數多く作りたいと思つてをります

「童心の美しさ」

特選五席について

山澤審査員

従來の様に單なる藝術寫眞、特に自己陶醉に陥り易いもののみであつてはならない、寧ろ積極的に社會教化の重要使命の存することを忘れてはならない、この繪は單なる報道寫眞の様にも見えるが構圖の纏め方、調子のよさによって中に秘む純眞なる子供達の心の美しさの表れを見逃し得ない

1941 年

1941 年 9 月 17 日 石版 3 面

第八回 朝鮮寫眞展覽會

＝作品募集規程＝

【課題】 隨意

【出品印畫の大きさ】 四つ切に限る（但し全紙四分の一は四つ切りと認む）

【應募資格】 全朝鮮寫眞聯盟に加入登録済みの團體會員に限る

【使用材料】 自由

【出品點數】 制限なし

【印畫締切】 昭和十六年十一月五日

【印畫提出に關する注意】

（イ） 作品は展覽會若くは公刊物に發表せざるもの

（ロ） 台紙は隨意とす

（ハ） 印畫の裏面に應募章を密着し本聯盟から交付した各自の會員番號(昭和十六年度登録番號)を記入し、住所氏名は一切書かぬ事

（ニ） 應募印畫は一切返却せず

【版權】 全朝鮮寫眞聯盟に歸屬す

【印畫送り先】 京城府太平通一丁目 京城日報社内 全朝鮮寫眞聯盟宛

【審査員】 山澤三造氏 中根秀氏 藤井雅男氏 森川新一氏

【審査發表】 京城日報十一月十八日附朝刊

【賞品】

推薦（二名）李王職長官賞 壹名

學務局長賞 壹名

推薦賞、京城日報副賞及賞狀

特選（五名）特選賞、京城日報副賞及賞狀

入選（一〇〇名）入選賞及賞狀

【展覽會】 十一月十九日より廿三日迄京城三越五階第一畫廊において開催、尙全鮮主要都市にて巡回展を催す

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1941년 10월 31일 석간 3면

1941년 11월 5일 석간 3면

全朝鮮寫眞聯盟主催
第八回朝鮮寫眞展覽會
出品締切=十一月五日まで

1941년 11월 10일 조간 3면

全鮮寫眞展
入選者決定

回を重ねるごとに秀作を生み出して半島寫壇の最高位を行く全朝鮮寫眞聯盟主催『全鮮寫眞展覽會』の第八回出品募集は去る五日總數五百卅餘の作品を得て締切りの九日遞信局事業會館で山澤、藤井、中根、森川の四審査員參集、嚴重な審査を行った結果

推薦二、特選五、入選百點をそれぞれ決定、なほ本年度から昨年度推薦賞受賞者を無審査出品として五點を加へた

1941년 11월 16일 석간 3면

寫壇と時局
第八回朝鮮寫眞展審査總評
山澤三造

全朝鮮寫眞聯盟主催の第八回朝鮮寫眞展覽會の審査成績に就ては十七日に發表される筈で、それに先立って應募作品の全體にわたり總評めいたものを書きたいと思ふが、率直にいふと、毎回のことではあるが、粒が揃って來てそれを選ぶのに悩まされたことを白狀せねばならない。

特に、今回は時局に覺めたものが多く、徒らに自己陶醉に陥った極端なもの、或ひは不健全な作品は影をひそめた。

これは一つは半島寫壇の動きが國策協力の實を擧げんとする熱意の現はれで、實に悦ばしいことである。

扨て、回を重ねること茲に八回この間に時局は進展して、今や萬民等しく確固たる覺悟をかためて大政に翼贊するの秋に、寫眞翼贊展が開かれることとなった譯で、應募者にとっては時局下材料入手加ふるに、防諜等の立場より種種約あるにも拘らず、斯くも多數應募されたことは感激のほかない。

選に入った作品には、いづれも時代の動きが率直に描寫されており、又はこれが直ちに社會教化運動に寄與される眞劍味が現はれてより良き明日の寫壇の動きが窺はれる。常に云ふことであるが、寫眞機は自分の眼であり心であり、單なる機械ではない。だから捉へる場合にも、寫す人ではなく、對象に對する愛情をもって捉へる。この愛情が寫す人の氣持の中にあつてこそ。優秀作が生まれるのである。所謂新體制寫眞とは、斯くして作られたものを指すのではなからうか。

大政に翼贊して、大東亞の建設に協力するこの麗はしい愛情をもって、對象を捉へようとする氣持の中に、眞の日本精神が現はれ、眞の優秀作が生れるものと信ずる機械まかせの仕事は駄目、機械が寫してくれると思つてゐる間はよい作品も望まれぬ。要は凡ゆる方面の教養昂揚にある。教養を通して作り上げることによって、國策に副ふ興亞精神の顯現があり、時代のもとむる優秀作が生れるといへよう。

即ち、新しい自覺の下に、新しい使命達成に、愛情の籠った熱意ある作業を望むものである。

寫眞といふ狭い範圍に囚はれず新生活様式に基礎をおいて、政治經濟、文化、凡ゆる方面に理解を持てるだけの修養を積み、その生活内容を盛つてこそ、寫眞翼贊の實を擧げ得るのであり、時局下寫壇の進路でもあるといふことを今度の審査にあたってつくづく思つたことである。

1941年 11月 17日 週間 3頁

力作百餘點
朝鮮寫眞展覽會
十九日から三越

半島寫眞壇を總動員し去る九月末から本年度展覽出展の優勝作を募集中であった全朝鮮寫眞聯盟では五日搬入を締切ったが、時局に目ざめた力作五百卅七點を得たので九日山澤、中根、藤井、森川四審査員會同嚴選の結果左の通り推薦二點、特選五點、入選百二點を決定した、尙聯盟では入選作を陳列、十九日から廿三日まで三越五階第一畫廊で第八回朝鮮寫眞展覽會を開催する

【推薦】第一席朝靄衝いて高平破魔男▲第二席科學する澁谷佐市【特選】第一席朝の清掃石川宗男▲第二席少年航空士鄭道善 第三席産業戰士鯨岡昇▲第四席鐵壁の守り萩尾伸吉▲第五席突撃佐藤信男【入選】宮詣（無鑑査）生野實▲増産に勵む（無鑑査）河野琴舟▲輝く感謝（無鑑査）古瀬繁▲初夏佐武廣一▲豊穰の秋正木春作▲海に遊ぶ松尾元治▲豊作を祈って伊勢市藏▲豆荒鷺同▲勤勞奉仕同▲老松萩尾伸吉▲秋深し同▲暮れゆく山同▲さあ一列に並びませう杉本長一▲ニッポンの誇り堀江喜二雄▲國の薫り同▲登校東島隆二▲朝露踏んで高平破魔男▲麥收宮川茂▲夕暮同▲湖畔同▲熱と力で食糧増産金山晴顯▲仰げよ日の丸神川岩太郎▲朝同▲興亞の小供樗本猛雄▲初詣で宮川二郎▲銃後同▲朗笑同▲日曜日の家路鈴木源太郎▲農家の裏朴照晷▲雨伊藤成男▲朝同▲興亞の兒林政吉▲殘照白雲慶▲兎倉元鹿多史▲登校同▲興亞のこども鯨岡昇▲勤勞奉仕同▲少年航空士同▲戰跡の早春同▲防火班旭忠雄▲農家島田利雄▲小國民井後周藏▲勤勞報國際岡本伊之助▲ネコ同▲收穫同▲秋の郊外山本英雄▲古城の秋駒木根清彦▲秋の花同▲銃後の乙女安澤仁平次▲護りは固し同▲銃後の務同▲田園の朝駒木根清彦▲生産の光同▲小春日和洪田永光▲鍛へよ少年八木永之祐▲霧の山岳中野文雄▲父は戰場福田千代之助▲鍛える女性同▲慰問沼喜久一▲天まで上れ同▲青年訓練同▲渡船場の朝同▲豊年同▲一坪園藝も豊作同▲姉も弟も總力で同▲運動會同▲算盤の音も静まるとき中島光之助▲國旗の下に同▲收穫西村東光▲そなへは固し山浦皓孝▲神苑の朝松浪忠藏▲征け大空へ緒方治助▲家庭日記同▲訓練荒木正次▲母と子古林清方▲職域奉公島村克二▲朝光を浴びて同▲朝詣同▲秋の朝鄭道善▲少年の憧れ同▲朝陽同▲未來の荒鷺同▲黄昏同▲少年工吉香保輔▲荒る海邊同▲夕日田中捨男▲楽しき船路同▲朝の海梶谷靜風▲登校新體制吉澤耕■▲朝の日課豊原モ、ヨ▲水に鍛へる伊藤茂枝▲御旗の下に石井武文▲學園の朝同▲鐵に鍛へる同▲初夏齋藤晴次▲早春三原豊▲虫籠篠原勝利▲皆勞高橋誠一▲秋晴れ同▲朗らか同▲取入れ進藤卓三▲快翔澁谷佐市▲收穫同▲牛耕同

1941년 11월 19일 석간 3면

推薦一席 " 朝靄衝いて " 無鑑査 (前年度推薦) 京城寫眞硏究會 高平破魔男

想を練って待機一ヶ年

高平破魔男

このすばらしい川靄は日の出前後僅か二、三十分の間でしかも初冬の寒冷な好天の日でなくては見られない。昨冬この景觀に接し、これを新體制に即して如何に取扱ふべきか、構想を練って待機すること一年、この九月右の條件の日を選んで、午前五時福溪行の一番列車に飛び乗った。厚いジャケットを着込んでみたが、私は車中でガタガタふるへた。議政府から二キロ餘り、陽の出を氣にしながら駈け足で現場に向った。朝陽は今正に山を出離れようとしてゐるその一瞬のこれは何とすばらし景觀であらう……私は近く農民道場に駈け込むやうにして、青年を借受けその川靄の中を渡ってもらった。一ヶ年待機の苦心が今酬いられた譯です。今回迄は未だ發表の機に至らなかったが、今ある構想の下に組寫眞に取りかゝってゐます。來年あたりからはこの方面にも御考慮を御願ひします

1941년 11월 19일 석간 3면

日時…十九日より廿三日まで (五日間)

會場…京城三越五階第一畫廊

第八回朝鮮寫眞展覽會

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1941 年 11 月 20 日 석간 3 면

推薦二席 " 科學する " 前年度審査員 (無鑑査) 澁谷佐市

子を持つ親の一つの企圖

澁谷佐市

今のところ田舎ではよい題材はなく、ともすれば仕事に追はれ、最近は殆ど怠り勝ちでありました。此の度お褒めに依りまして出品させて戴きましたものの、到底御期待に添ふ様なものではありません誠まことに申譯まことない事ことと思おもって居ゐりました。幸さいひ其そのの點ちを御諒ごりやう恕じや下くだされ、時局下子しきよを持つ親おやとして、科學する學童がくどうの表現ひょうげんを企圖きとしました拙作せつさくが、圖ずらずも推薦ていせんの光榮こうえいに浴あしました事は誠まことに意外いがいでなりません。

1941 年 11 月 21 日 석간 3 면

特選一席 " 朝の清掃 " 會寧寫友會 石川宗男

理想の完遂に無意識に二枚

石川宗男

九月十六日、會寧神社のお祭で、町から町には暖簾のれんを垂れ、市民は時局下一層しきよの自覺じかくと決心けつしんを集めて居ゐる氣分きぶんが見える。私も日頃の理想りしやうと決心けつしんを完遂くわんすいせんと、日本晴にっぽんはの天候てんこうに寫眞機しやしんきを肩かたに掛かけて町まちに出た。あちらこちら歩あく内うちに、母子二人ぼしににで朝あの清掃せいじようをしてゐるののが目めに映うつった。光線くわんせんはよし、構圖くわうとはよし、無意識むいしやくに二枚にまいばかり寫うつした。構圖くわうとをかへてもう少し寫うつさうと思おもったが、フキフィルムを取替とへてゐる中なかに掃除そうじも濟すんだし、頼たのんでやればどうしても自然しぜんのよさがないので止め、早速さつそく家に歸かへって現像げんさうした現像げんさうして見みると餘あまりよい出來榮うえでなかつたが、然しかし初めはじめめの氣分きぶんに敗やけたくはなかつたので引伸ひばし仕上し上げて應募おうぼした。その後發表はつぱつが待遠まちしく、どうであるかと思おもつてゐたら、特選とくせんになつたとの事こと、嬉うれしくて友人ゆうじん鄭君ていくんと手てを堅かく握にぎり合あひ、今後こんごの精進しやうじんを誓ちかつたことである。

1941 年 11 月 22 日 석간 3 면

特選二席 "少年航空士" 會寧寫友會 鄭道善

國防國家的な作品を今後も

鄭道善

朝鮮寫眞聯盟には今春入會しました、春季の新體制及び海の寫眞にも入選しましたが、今般第八回寫眞展覽會に拙作『少年航空士』が特選に選ばれましたことは喜びに堪へません、あの寫眞を寫した日は日本晴の好い天氣で、友人李村景來氏の斡旋で地元國民學校模型飛行部の未來の荒鷺連中を同伴し近郊へ出掛け、小高い丘を選んでアングルを下げ、體を地に伏せて種々撮影した中の一枚がこれです落陽に三分前の焦急撮影なので、構圖を考へる餘地もなく、特にモデルに慣れない子供さん達のためその動作の硬い事は残念に思ひます、現今高度國防國家體制の重要性を認識し、二世荒鷺銃後の健兒達を主題にした作品を今後澤山發表したいと考へてゐます

1941 年 11 月 23 日 석간 3 면

特選三席 "産業戰士" 鰐寫友會 鯨岡昇

戰線に通ずる銃後の息吹き

鯨岡昇

日頃、寫眞による翼賛とは時局下における國家社會の健全な姿を把握することであると思つてをります。附近の工場から聞えるハンマーの響きやベルトの唸りには、戰線に通ふ息吹きが感じられます。火花の中で働く産業戰士の逞しさに銃後の力を視られると思ひます。其力を盛り上げた製作をしたいと考へてゐました。締切近くなつて撮つたものですが、迫力に乏しく意に滿たないものでした。撮り直す餘裕もなく出しましたが、特選に選ばれましたことは望外の喜びでした。更に一段と精進致したい所存です。

1941 年 11 月 25 日 석간 3 면

特選四席 "鐵壁の守" 三越銀影會 萩尾伸吉

銃後緊張の秋榮養價を望む

萩尾伸吉

或る作者曰く、我々は作品に味付のみしてはならぬ。『味のある作品』から『榮養價のある作品』へと進展すべきである云々……。要するに、吾人の作畫は社會的に何物かを物語り、また訴へ得る作畫であらねばならぬ……。さうした意圖のもとに作られた作品の中にこそ、所謂榮養價が見出せるのではなからうか。御選出下さった主題の印畫は、去る防空演習の最後の日に撮ったものゝ一枚で、警戒班員の眞剣な動作に心惹かれ、シャッターを切りました。敵機幾萬何物ぞ、燒夷爆彈何かあらん。我にこの備へ、この守り、この魂あり。銃後防空への關心また一段と緊張の度を加へるの秋、この拙作に幾分でもいふところの榮養價がありとすれば望外の光榮であると共に、審査員諸士に深く敬意を表するものである。惜むらくは、手前の人物にわれながら迫力を感じないことであります。

1941 年 11 月 26 日 석간 3 면

特選五席 "突撃" 北極星クラブ 佐藤信男

遺家族慰問に始めた寫眞が

佐藤信男

寫眞をはじめたのは師範學校にゐるところからです。奉職してからは多忙のため一時中絶してゐましたが、事變がはじまってから、皇軍勇士遺家族を寫眞によって慰問しようと、パーレット單玉を買求めて寫しはじめました。

此度入選しました寫眞は、轟島で少年義勇隊の勇ましい突撃遊戯を見『銃後の子供達はこんなに元氣です』と慰問寫眞としては申分なしと思って寫しました。出來上ってから先輩にすゝめられ、はじめて展覽會に一枚應募しました。それが特選に入ったとはほんとに信ぜら

れません。これに力を得、先輩各位の御指導を受け、寫眞による銃後奉公に萬分の一の力をつくしたいと思ひます。

1942年

1942年 9월 30일 조간 4면

第九回 朝鮮寫眞展覽會

—作品募集規程—

- 一、課題 隨意
- 一、出品印畫の大きさ 四切に限る（但し全紙四分の一は四つ切と認む）
- 一、應募資格 全朝鮮寫眞聯盟會員に限る
- 一、使用材料 自由
- 一、印畫締切 昭和十七年十一月十三日
- 一、審査 昭和十七年十一月十五日
- 一、印畫提出に關する注意
 - イ、展覽會若くは公刊物に發表せざるもの
 - ロ、台紙は隨意とす
 - ハ、印畫の裏書に應募章を密着し昭和十七年度聯盟登録各自番號を記入し、住所氏名は一切書かぬこと
 - ニ、應募印畫は一切返却せず、版權は全朝鮮寫眞聯盟に歸屬す
- 一、印畫送り先 京城府太平通一丁目 京城日報社内 全朝鮮寫眞聯盟
- 一、審査員 全朝鮮寫眞聯盟審査員 山澤三造氏、同生野實氏、同澁谷佐市氏、同河野琴舟氏、同森川新一氏
- 一、審査發表 十一月十九日附京城日報朝刊
- 一、賞品
 - 推薦（二名）李王職長官賞（一名）學務局長賞（一名推薦）賞、京城日報副賞及賞狀
 - 特選（五名）特選賞、京城日報副賞及賞狀
 - 入選（一〇〇名）入選賞及賞狀
- 一、展覽會 十一月二十日より二十五日まで（五日間）京城三越五階畫廊にて開催

全朝鮮寫眞聯盟

1942年 11월 16일 조간 3면

朝鮮寫眞展の審査

半島寫壇の權威全朝鮮寫眞聯盟主催 " 第九回朝鮮寫眞展覽會 " は廿日から廿五日まで京城三越畫廊で開催されるが、これにさきだち十五日午前十時から午後五時まで遞信事業會館に山澤、生野、澁谷、河野、森川の各審査員が集り審査會を開いた、今年度の出品點數は五百八十三點の多數に達してをり神社、生産勤勞風景等時局色濃厚なものを採り上げ非常に逞しくなつてゐることは銃後寫壇の傾向を反映してゐる 【寫眞 = 寫眞展出品の審査會】

1942年 11월 19일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 祖國日本 【推薦第一席】 三越銀影會 萩尾伸吉

1942年 11월 19일 조간 3면

入賞作百八點

第九回朝鮮寫眞展

半島の寫眞文化向上普及に寄與するため全朝鮮寫眞聯盟では第九回寫眞展を開催することになり先ほど作品を全鮮から募集、締切日の十五日までの應集作品五百八十三點を嚴選の結果左の優秀作百八點を得たので來る廿日から廿五日まで三越ギャラリーで公開することになった

【推薦】 第一席 『祖國日本』 萩尾伸吉、第二席 『山麓の朝』 鄭道善

【特選】 第一席 『清掃』 中村福松 第二席 『朝の風景』 古瀬繁、第三席 『仔猫』 内藤富吉、第四席 『國民學校の朝』 鯨岡昇、第五席 『旋律』 駒木根清彦

【入選】 高平破魔男（無鑑査）進滿、永田一畝、川合勇、吉永勝美（二點）、宮川茂（二點）中村卯一、林隆弘、高平破魔男、河野通幸、李憲器、市根井照千代、洪田永光（二點）、長

谷川龍一、金山晴顯、鄭道善（七點）、岡本肇、徐亨燮、石川宗男（二點）崔鳳禱（三點）
金田碩鎮（二點）松田徹、平山鉉浩、柿元一（二點）緒方治助（二點）岡本眞、五島義夫、
武智武雄、市島九郎（二點）榎本猛雄（六點）木瀬虎男、松永辰彦、清成隆朗（三點）佐武
廣一、荒森三吉神崎鶴雄（三點）射場達夫（二點）清浦永基、丁龍福（三點）田中捨男（二
點）梶谷靜風（二點）石橋正春、山浦桔孝【ママ、皓孝カ】、伊勢市藏、安澤仁平次（四點）
駒木根清彦（五點）堀江喜二夫（二點）石井武文（二點）西村東光、沼喜久一（四點）松浪
忠藏（三點）萩尾伸吉、金子信一、藤原世晶、鯨岡昇、白川義孝、古瀬繁（二點）

1942년 11월 19일 조간 3면

審査總評

山澤三造

今回特に目立ったことは銃後を護る婦人の活躍する健氣さを端的に表はした作品が多かつたことである自然を愛し、自然に親しみ、生産戦に戦ひ抜く、純情な農村婦人の姿に頭が下り、一粒の米、一粒の麥も粗末にしてはならない感激を覺えた、これを五、六年前のこの種展覽會に較れば全く隔世の感ありといへよう、最近、凡ゆる寫眞材料の入手が窮屈となつてゐながら作品は何れも素晴らしい出來榮えをみせてゐる、つまり寫眞の出來榮えは機械でもなければ材料のよしあしでもない、作者の研究努力にあるといつてよい、本展覽會も既に九回、益々時局認識の度が加はり社會の教化に資しようとする眞劍な態度が窺はれて來たことは新しい寫眞道の創造といつてよからう

1942년 11월 20일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 山麓の朝 【推薦第二席】 會寧寫友會 鄭道善

1942년 11월 21일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 清掃 【特選第一席】 彌生會 中村福松

1942년 11월 22일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 朝の風景 【特選第二席】 朝鮮寫眞會 古瀬繁

1942년 11월 23일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 仔猫 【特選第三席】 さくら會 内藤富吉

1942년 11월 24일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 國民學校の朝 【特選第四席】 鶴寫友會 鯨岡昇

1942년 11월 25일 조간 2면

第九回朝鮮寫眞展覽會 旋律 【特選第五席】 永登光畫研究會 駒木根清彦

1943 年

1943 年 10 月 3 日 週間 3 面

1943 年 10 月 7 日 週間 3 面

聯盟創立十周年記念 第十回朝鮮寫眞展覽會

—作品募集規程—

- 一、課頭 [ママ、課題カ] 隨意
- 一、出品印畫の大きさ 四つ切に限る (但し全紙四分の一は四つ切と認む)
- 一、應募資格 全朝鮮寫眞聯盟會員に限る
- 一、使用材料 自由
- 一、出品點數 制限なし
- 一、印畫締切 昭和十八年十一月十二日
- 一、審査 昭和十八年十一月十四日
- 一、印畫提出に關する注意
 - 1、展覽會若くは公刊物に發表せざるもの
 - 2、台紙は隨意とす
 - 3、印畫の裏面に應募■を密着し (台紙の裏に貼らぬこと) 本聯盟昭和十八年度登録番號を記入し住所氏名は一切書かぬ事
 - 4、應募印畫は一切返却せず
- 一、版權 全朝鮮寫眞聯盟に歸屬す
- 一、印畫送り先 京城府中區太平通一丁目 京城日報社内 全朝鮮寫眞聯盟宛
- 一、審査員
 - 全朝鮮寫眞聯盟審査員 山澤三造氏
 - ” 藤井雅男氏
 - ” 生野 實氏
 - ” 鯨岡 昇氏
 - ” 森川新一氏
- 一、審査發表 十一月十九日附京城日報朝刊
- 一、賞品

推薦（二名） 李王職長官賞（一名） 學務局長賞（一名） 推薦賞及賞狀、京城日報副賞

特選（五名） 特選賞及賞狀 京城日報副賞

入選（一〇〇名） 入選賞及賞狀

一、展覽會 十一月廿日より廿六日まで 京城三越五階にて開催

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1943 年 11 月 19 日 조간 3 면

四百餘點から嚴選 第十回朝鮮寫眞展入選者發表

半島における健全な寫眞文化の向上發達に寄與するため朝鮮瀨聯盟では恒例の第十回瀨展を開催すべく曩に作品を募り應募四百七十五點を得て去る十二日締切り山澤、藤井、生野、鯨岡、森川各審査委員の手で嚴密な審査をつゞけてゐたが左の通り入選決定を見廿日から廿六日まで京城三越で開催することとなった

推薦 第一席 榮えある兵に召されたり（無鑑査）萩尾伸吉 ▲第二席 作業 駒木根清彦

特選 第一席 收穫の朝 森江信雄 ▲第二席 眸 松井忠文 ▲第三席 黎明 大山友平 ▲第四席 牧場の朝 五島義夫 ▲第五席 輝く波頭 樫本猛雄

入選 鄭道善（無鑑査） 齋藤晴次（三點） 伊藤成男、井上隆次（二點） 佐武廣一、寺本作助（二點） 沼喜久一（五點） 大山友平（四點） 進滿（二點） 島村克二、松村義雄（二點） 田川周治、太田誠一（四點） 岩本春雨、中村福松、山浦皓孝、樫本猛雄、玉田好夫、松永辰彦（二點） 加古定一（二點） 中尾勇夫、吳山秀雄、八木永之祐、洪田永光、中野文雄（二點） 永田正信、堀江喜二雄、屋成一夫（二點） 梶谷靜風（二點） 平山鉉浩、李景來（五點） 駒木根清彦（四點） 安澤仁平次、高島鐘壹、石橋正春（二點） 松本基一（三點） 玉山晴光、遠山翠樹、善竹賢（四點） 鄭道善（二點） 宮尾癸己郎（三點） 朴得錫、石川宗男（四點） 森江信雄、崔鳳禧（三點） 岡本肇（二點） 宮本新野（二點） 南聖次郎（三點） 大江正隆（二點） 松浪忠藏（二點） 高山時彦

審査雑感

山澤三造

今回の應募作品を創立当初のそれに比ぶれば、内容、技巧共に向上を示し、特に内容に於て隔世の感あるを覚える、更に作家の心構へは一枚のフィルムと雖も無駄にすることなく、國策教化に資せんとする眞剣な態度が窺はれて頼母しいこの度入賞したものについてみて、榮えある兵に召された誇りといひ、はた生産擴充にいそしむ産業戰士の喜びといひ、いづれも脈脈たる生命の流れがうかゞはれて眞に力強く思はれた、すべからく寫眞人は時代の動きと共に、高き文化の育成に努め、寫眞を通して大東亞建設に寄與して欲しいものである

1943 年 11 月 19 日 週間 3 日

會期…十一月二十日より二十六日まで

會場…三越五階畫廊

聯盟創立十周年

朝鮮寫眞展覽會

主催 全朝鮮寫眞聯盟

1943 年 11 月 21 日 週間 4 日

「兵に召されたり」の感激

聯盟寫眞展、きのふ幕開く

朝鮮寫眞聯盟寫眞展は廿日三越會場で幕を開けた特選第一席「收穫の朝」はじめ「榮えある兵に召されたり」等々の傑作に觀衆は吸ひつけられ後を絶たぬが廿六日まで續開される【寫眞＝蓋開けの同展】

1943년 11월 23일 조간 2면

推薦第一席 無鑑査 榮えある兵に召されたり 萩尾伸吉 (三越銀影會)

1943년 11월 25일 조간 4면

推薦第二席 "作業" 駒木根清彦 (朝鮮寫友會)

1943년 11월 26일 조간 4면

特選第一席 "收穫の朝" 木江信雄 (會寧寫友會)

1943년 11월 27일 조간 4면

特選第二席 "眸" 松井忠文 (鐵道局寫眞同好會)

1943년 11월 28일 조간 4면

特選第三席 "黎明" 大山友平 (京日寫友會)

1943년 11월 30일 조간 4면

特選第四席 『牧場の朝』 五島義夫 (京城交友クラブ)

1943년 12월 1일 조간 4면 기사

特選第五席 『輝く波頭』 樫本猛雄 (朝鮮寫眞會)